

もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス

Let's creampie a young succubus with a lascivious mark.

コデアガシン



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス
Artworks





Contents

- P005 版權イラストギャラリー
- P020 夢ヶ崎 魔恋
- P030 キャラル・レストラム
- P040 鴛宮 鷹美
- P050 シャルティーナ・ルイトガルト
- P058 キュンキュン・ナ・オルガナイト
- P066 エルゼ・イヴ・ディアンタ
- P074 セレスティア・ラシエール
- P082 ロザリナ・ラファエロス
- P092 ソフィア・フォン・マナグラス
- P100 ファム
- P108 ハーレム&その他イベント
- P114 サブキャラクター
(アルヴィネラ/フィリス/アンジェリカ/リジィ/リラ
ベルダ/マロン/シトラ/ハビネス/ラグジュアル)
- P112 背景コレクション
- P114 衣装デザインラフ画セレクション
- P126 インタビュー
- P130 奥付





孕も炎のおっぱい異世界
超舌サキバス学園!
- もっと！孕ませ！炎のおっぱい異世界 超エロサキバス学園！ -

Illustration Gallery





▲ホワイトデーポストカード (ラグジュアル illustrated by であうえあ)



▲販促B2タベストリー (FANZA)



▲販促B2タベストリー (げっちゅ屋)



▲販促B2タベストリー (メロンボックス)



▲販促B2タペストリー(ソフマップ)



▲販促B2タペストリー (トレーダー)



▲販促B2タペストリー（駿河屋）



▲コミックバベル2021年7月号表紙イラスト

▶販促B2タペストリー(とらのあな)





▲サイン会限定複製色紙(ファミ/メイド服)



▲サイン会限定複製色紙(シャルティーナ/牛コスプレ)



▲クリアファイル



▲やわらかクリアチャーム(シャルティーナ)



▲やわらかクリアチャーム(ファム)



▲やわらかクリアチャーム(ロザリナ)



▲やわらかクリアチャーム(ラグジュアル/笑顔)



▲やわらかクリアチャーム(ラグジュアル/恍惚)



▲やわらかクリアチャーム(鷹美)



▲やわらかクリアチャーム(キュンキュン)



▲やわらかクリアチャーム(エルゼ)

Mako Yumegasaki



色恋沙汰には不器用な水泳部所属のOcup幼なじみ

夢々崎 魔恋

Mako Yumegasaki [CV: こはる風]

身長: 160cm
スリーサイズ: B115 / W57 / H86

O-cup

崎羽精炎とは昔から家が隣同士で、毒舌だが明るく穏やかな性格の人間。精炎に思いを寄せているため、彼からの頼まれごとを断ることができず、いつも大変な目に合っている。今回も召喚儀式のトラブルに巻き込まれ、角と尻尾のあるサキュバスと化して異世界に転移させられてしまう。

「あれは！ そ、そのう……あなたが、今日はお前に大切な用事があるんだ、なんて言うからでしょ……う」



制服 サキュバス 水着 現世制服 裸 裸 (淫紋)



魔恋「んっ……おぼおっ!? なっ、なに……? おっ、あ……んぶっ、ごぼう……っ!」

急に鈴口からほとばしったザーメンに、魔恋が驚く。

魔恋(あっ、あっ、あ……こ、これが、精液っ? 射精するほど気持ちよくなってくれたの? ああっ、嬉しいっ! こんなに出してくれるなんて幸せっ♥♥)

咄えられたまま射精してしまったので、そのままボロボロと口の中に精液が注ぎ込まれる。

精炎「わ、悪いい……!」

魔恋「も、もうっ……ひよ、ひょうがらいわれ……こんなに……ごぼっ、ンンっ、ちゃぶ……ン、ごくっ、ごく……ンンンっ」

「ああ……ン、もう……なんて匂いなの……生々しくて……いかにもオスって感じの……野性的な……はあん」

魔恋「ひいっ! はっ、はひっ! はあっ、ひゃあああっ、あひいひいっ、す、吸われてるううっ! 乳首っ、乳首がっ、ンひいひいっ♥♥」
強く吸われているせいか、母乳の分泌量も増えているような気がする。なんと
いうか、もうビュービューと大量に出まくっている感じだ。搾乳機に見とれてい
ると、魔恋が催促するように腰を振り始めた。愛液の量もめちゃくちゃ増えて
いる。どうやら搾乳されることで感じてしまっているらしい。

精炎「どうした? そんなに腰振って。おっぱいミルク搾り取られて気持ちいいの
か?」

魔恋「そっ、そんなこと、にゃいけど……くふうううっ! はあっ、ンンン
っ……ああん、お願いっ、もっと動かしてえ……ンはっ、ひいっ、はあん!」

「きゃはああああんっ! ダ、ダメっ……
強すぎ……あううっ、あっ、あうっ! あああ
ん、ち、乳首があ……きひいひいひい〜っ!」



（んああっ、れも、私、いっぱい子宮にら
ひて欲しくなっぴゃってりゅ……あっ、あ
あっ、種付けされたら、どうにやっっちゃ
うによ？ ひゃはああああん♡♡）

魔恋「ふわあああああっ！ イクっ、イッひゃうっ！ ひゃあああああ〜〜っ!!」
乳首から母乳を噴きながら、魔恋も俺に追いつくように絶頂まで辿り着いた。
魔恋「ひゃああああん、ミ、ミルクもいっふあい出てりゅううっ、ああああああっ、おっぱいイッてりゅうーっ！ はあうっ、ああっ、んっく、ふああっ!!」
ビュルビュルと白い汁を撒き散らし、魔恋は大きく全身を跳ねさせる。かなり深い絶頂を極めている。
魔恋「あ、あああっ、にやか出ししえいえき、お腹のにやかにたくひゃん……あああ……しゅ、しゅごいっ、こんなにヤ感触、初めてええ……♡♡」
うっとりとした恍惚の表情で甘い絶頂感を食う魔恋。ああっ、なんていうか、めちゃくちゃ可愛いぞ！
精炎「はあ……はあ……ま、まだ物足りなさうだな？」
魔恋「しょんらこと言わにやいれえ……は、恥じゆかひいよう……あふうっ、あっ、んくっ、ひはあっ!!」





「あーん、も、もう……やはあーん！ 敏感なと」……舌でペロペロするのやめてよお……ああつ、ンンンっ、ダメえ……」

魔恋「はひゃ……あつ……あつ、でっ、出ちゃうっ!? くひゃあああつ!! ンっ……やあああああつ!!」

おお! 混乱したように喘ぐ魔恋の股間から派手にオシッコが噴き出した。

魔恋「ああん!? いやっ! お漏らしなんて恥ずかしいっ! はああん、止まってえ……止まってよおお～……ああつ、はあ……ンンう」

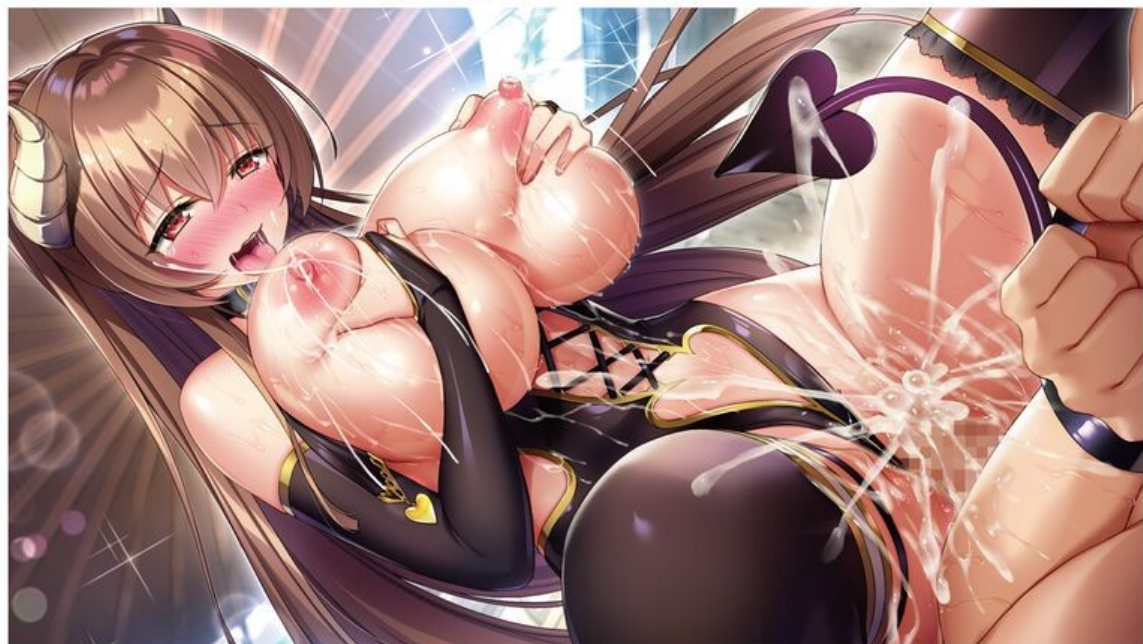
真っ赤になって叫ぶ魔恋だったが、湯気のたつ黄色い液体の放出は止まらなかった。

精炎「ずいぶんいっぱい出るなあ。我慢してたのか? 休み時間に済ませておかなきゃダメだろ」

魔恋「い、言わないでよおお! 好きでお漏らししてるんじゃないからあ……うううっ、も、もう、死んじやいたい……うううっ」



「アంతタの精液……もつと子宮れ、たっぷり飲みたいのお……
もつといっぱい、ザーメンであふれしやせてえ……♡ はあっ、
ンンンらっ……ああっ……」



魔恋「きゃはあっ♡ 出た出た♪ ザーメンど
っぴゅどびゅっ♡ ひやはははあっ♡ おマン
コの中、いっぱい来てるうらん♡♡」
それはもう、とんでもない勢いと量で、まるで鉄
砲水のような。堰き止められていた快感が
一気に解放されたのだから止められない。精
液が尿道を押し広げるようにしてペニスの中を
駆け上がる感覚。精液がとめどなくポンプで汲
み上げられ押し出されているという感じだ。
魔恋「ふわああああっ！ 中出しされてイッ
ひゃうらっ！ 、おマンコイクっ♡ ザーメンで
イクイクっ♡ イックうらう～～っ♡♡」
嬉しそうに魔恋は精液を子宮に吸い上げ、潮と
母乳を飛ばしながら派手な絶頂に達した。
魔恋「ンンっ……くはあああっ……おチンポミ
ルクラ……はひっ……あうらっ、はうん……ン
ンっ……はあん……くうらうらうらん♡」





「うああっ! あひいっ、ンっ! お、奥っ……ンンンっ、ふ、ふううっ、届いて、ふああっ、気持ちいいっ……ンあっ、ああああっ!!」



すでにおびただしい量の愛液で満たされている膈内に、精液をドピュドピュと放つ。

魔恋「ンああっ! イクううっ!!」

ほぼ同時に魔恋も全身をガクガクと痙攣させた。

魔恋「ひゃああああっ、中にいっぱい来てりゅううっ!!」

脈打ちながら欲望汁が噴き出すたび、下半身がとんでもない快楽に包まれる。

魔恋「はああっ、中出ししやれてイッてりゅっ! おマンコにたくしゃん出してもらってイクっ、ああああっ、イクうううっ♥♥ ンうううううううっ♥ イクっ……ンううっ、イク、イクの……うああああああっ!!」

イキながら魔恋は、絶賛射精中のチンポを猛烈な勢いでギュウギュウ締め付けてくる。



「もうっ……ほ、ほんろに、ドスケベな甘えん坊ならからあッマ
こんなにいっふあい出ひゃれたら、もう我慢できにゃいりゃない……♡♡」

魔恋「ンあっ、ふうっ……ああっ、おチンポが脈打ってドクドクれてりゅっ♪ おっぱい溶かされひやう♪ もっろ、もっろいっばいらひてえっ、ンああっ♡ はあああっ……こ、この匂い、たまにやいによ！ ザーメンミルクたっぷりかけらりえて、幸せえっ♡ はひいん、しえいえき、らーいしゅき♪」

精液まみれのまま全身をガクガクと痙攣させ、魔恋は絶頂を食る。

魔恋（はひゃあっ、だいしゅきな彼のおチンポじるっ♡ わたひのおっぱいれ射精ひてくりえてうれひいっ♡♡ あは、ああっ、くふう……はああん♡）

魔恋は欲望を吐き出した肉棒をギュッと乳肉で圧迫し、なおも気持ちよさそうに扱きたてる。





「きゃああああっ!?
バスの力らのっ? あああ、しゅげいいっ♡
本当に妊娠しちゃっらよおっ♡♡」

魔恋「ひゃふうっ! ンンっ、らしてっ! いっぱいらしてえっ! おチンポザーメンもっろもっろ、わらひの子宮にいつふあいしよしよぎこんれええ♡」

精炎「よしっ……出すからな! ううううっ!!」

魔恋「イクううっ、イクっ! あ、ああああっ、ンひいいいいっ! イクうううっ♡♡」

盛大な射精を待ち構えていたかのように、魔恋も同時に絶頂へと駆け上がった。子宮にたっぷりと精を注ぎ込んだ後、引き抜いて残りの精液をぶちまけてやる。

魔恋「ひゃはっ、あひっ、おチンポミルクまみれにしゃれてりゅっ♡ ンああああっ、あちゅいっ♡ あちゅくて気持ちいい♡」

白濁液を大量に浴びながら、魔恋はガクガクと全身を震わせて、連続で幾度もアクメを極める。

魔恋「あああっ、まらイクうっ! イクによおっ! イクうううっ! あひいいっ、イグううう——っ!」



魔恋「あああっ、子宮が熱くなってりゅっ♡♡ ンおとおお
 おツ♡ あはああああ……♡」
 母乳も盛大に噴き出して、魔恋の身体は白い液体まみれだ。
 魔恋「ほおっ、しえいえき熱いっ♡ イクっ！ イク、イクイ
 ク、イっちゃう！ イグううっ♡♡」
 身体の中も外も大量の精液を浴びて、魔恋は幸せそうに潮ま
 でふきながら絶頂する。
 魔恋「はっ、ひっ……おおっ、んほおおっ♡ おおお……
 おおっ……おおおうっ……♡」
 ピクピク痙攣しつつ、獣のような声をあげ続ける魔恋。まったく
 ……こんな可愛い顔、俺以外の誰にも絶対に見せられないな。
 魔恋「も、もう、こによおチンポかりや、離れられにやいい……
 ♡ はあはあっ、アンタのおチンポしゅき♡ しゅきいい……
 ♡ うへああ……♡」



「くひゃあっ♡ あちゅいのぶっかけ
 られふえりゅっ♡♡ ほおおっ♡♡
 赤ちゃん汁ううっ♡♡」





「ああん、もうっ……お母さんだけじゃ
 なくて、私のほうももっど気持ちよく
 してえ……ンンンっ！」

魔恋「んはあっ、お母さんが感じてるの可愛いつーンちゅちゅっ、ちゅば、ちゅばばっ、じゅるちゅるぶちゅりゅじゅるっ♥♥」

精炎「んぐ、んぐ、ちゅうううっ！」

俺と魔恋に両方の乳首を責められながら、魔美さんはどんどん高まってきた様子で腰を激しく振り始めた。

魔美「くっふううっ、んっ、ああっ、も、もうらめっ！ 排卵日マンコが子種ザーメン欲しがってるうっ！ ンあ、ああん、あんっ♥♥」
 堪えきれなくなったらしく、魔美さんが少しずつ身体を震わせる。それに釣られるように、魔恋もせっぱつまった声をあげる。

魔恋「んひっ、ふあっ、ふあああっ！ イ、イキそうっ……私もおっ！ アンタの指でおマンコグリグリしゃれてイっひやう……ンンンっ♥♥」

魔美「ふあああっ、わたしも……あああっ、イクっ……イクわあっ♥ イクから中に出して！ 中よ、中っ！ 子宮にいっぱい子種ようらいっ♥♥」



キャルル「待ってまってっ、まっれえ♥ らめらめっ♥
 たらされたりや、頭こわれりゆううッ!! ひひやアアア♥♥」

肉竿を膣底にまで食い込ませ、噴出する精汁をピチャピチャと叩き付けた。身も心も制御が利かないエクスタシーに翻弄され、キャルルがまたしても声にならない悲鳴を上げる。

キャルル「んにやあああッ♥ またきひやったァ♥ 熱々ザーメンっ、処女マンコの奥ウ♥ きもちよすぎへらめええ♥♥」



「あ♥♥ あッ♥♥ イッへんの「イッ、ひゃああ♥
 ザーメン吐しながら動いひゃらマッ、またイクらううッ♥」





キャルル「ひあ♥ あ♥ あアッ♥ 可愛いっへ言われながらや、中出しするっへ言われてもおっ、断れない♥♥」

思考が働かない状態でジュコジュコと激烈なセックスにさらされているキャルルが、嬌声を上げて悶える。精液を吸おうとするが如く、自らもくねくねと下半身を振り始めていた。

精炎「そろそろ出そうだ!」

キャルル「あうう!♥ オチンポおつきくなれる♥ オマンコの中れ、ドクンドクンって跳ねれえ、んああ♥ 中に出すって主張しちゃっへりゅう♥」

はしたなく吠えるキャルルは、また呂律が回らないくらい強烈な快感に飲み込まれていた。母乳を漏らす乳さえも、ブルブルッと振り乱している。膣内の媚肉も、より深くに肉棒を誘い込むかのように粘膜をうねらせていた。

（こんな体勢で……っ、向かい合って、抱き合って、いっぱいキスまでしてえ……っ、こんなのもまるで、恋人同士みたい……♥）





「んひひ!? あああッ!? ミルクっっ、おっぱいにす
り込まれてるウッ!? んはっ、先っぽにも当たって
……あんんっっ♡」

キヤルル「んッ、うう……ちょっと、聞こえてるんでしょ? おっぱい触るの……っ、ハアッ、ハア……やめなさい……っ」
 精炎(言われてやめるくらいなら初めからしてないぜ! それよりもっと気持ちよくするぞ!)
 魔導書の力で、手をいくつも生み出すことができた。これを使って、キヤルルの身体中に手の平をねっとりとおぼせていく。
 キヤルル「はひひ!? なっ、何よこれ!? あんッ、おっぱいだけじゃなくて……っ、きゃ!? 太腿お!? お腹もっ、んんんッ!?」
 母乳で滑る乳肉を弄びつつ、キヤルルの全身にまで手を伸ばす。汗が噴き出している生肌にくたべたと手の平を張り付け、ねっちり滑らせていく。
 キヤルル「ひんんッ!? 手……やめで……! はうっ、んん♡ 気付かれちゃうからア!」
 抗議の言葉には答えず、ピンクに上気した肌を撫で付ける。キヤルルは不安そうな、でも熱っぽい溜め息をこぼし、身震いしていた。



「ほほんッラッ!!? しょれえっ、入っへるじゃない♡
おんんっ、オチンポっ、お腹の奥までっ、届ひひゃてるウツ♡」

困惑の声を上げるキャルルを尻目に、無防備な尻穴へと亀頭をあてがった。

キャルル「ひににんッ!? そこっ、おっ、お尻イ……ッ!」

精液と愛液でどろどろの肉竿で、窄まっている肉穴をこじ開けていく。

キャルル「ひほッ!? おっ、ううう!? おおっ、お尻イッ!? らめえええッ!」

精炎「うわあ!? チンポが取れそうなくらいの締め付けッ!」

おそらくキャルルは、アナル処女だろう。

精炎「キャルルのアナル処女、俺がもらっッ!」

キャルル「ひほほッ!? ばっ、バカあッ! アナル処女なんへっ、らめだったらアアッ!」

排泄の穴を無理矢理押し広げられ、異物を詰め込まれて、キャルルはブルルブルルッと身を震わせる。

キャルル「はおっ、おっん!? んんうっ、お尻イッ、苦し……!? くふおッ! んぐぐッ!」



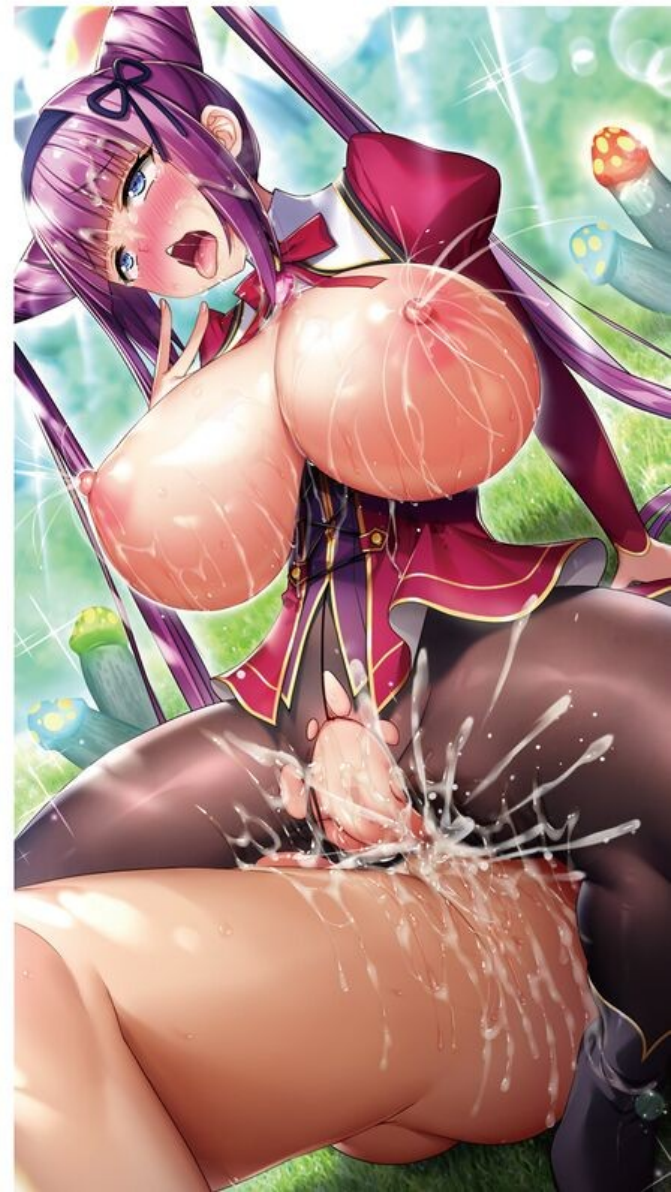


「アナルイキなんて、変態すぎへっ、らめよお♡でもれもっ、
お腹の芯がキュンキュンしへっ、耐えられにゃひい♡」

キャルルは獣のようにみっともなく吠え、ガクガクッと背筋を波打たせる。俺も同時にキャルルの尻たぶに下腹を叩き付け、腸の奥で精液を放っていた。

キャルル「ほおおんっ♡ お腹にあちゅイザーメンきひゃああ♡ おっん♡ おっぱいも出りゅううっ♡」
灼熱の汁を腹の中で感じてオーガズムに没するキャルル。乳頭からはブビブビッと音を鳴らし、はしたなく射乳していた。

キャルル「あひゃあああっ♡ しゅごいよお♡ アナルイキっ、きもちよしゅぎひいイっ♡♡」
膣よりも激しく上り詰め、強烈な快感に寄り目にまでなっている。唇から漏れる声も完全に快楽に染まりきり、淫楽の谷に落ちてしまっていた。





「はぶアあた♥ザーメンっ、しゅき♡い♡喉に絡まりゅのもっ、ジュジュなのもっ、イイのお♡」

キャルの激しい愛撫にさらされ、この上ない絶頂感がただただ続く。とんでもない快感は脳内にまで侵食し、頭まで痺れてきた。

キャル「ザーメンっ、ぢゅぽっ、ぢゅぽっ♥ もっほちようらい♡ オチンポらしへえ♥ ぢゆるるっ、ぢゅうううう♥」

粘液でグチョグチョの柔乳でズリュズリュしごかれ、窄めた唇で亀頭をズリズリと摩擦され、鈴口をズルッと吸い立てられる。身体の芯から何か大事なものが抜かれてしまうかのような錯覚を起こすほど、キャルの口淫奉仕に弄ばれていた。

キャル「ザーメン♥ じゃーめんん♥ ジュポポッ、んぽ♥ ぐぼんっ♥ もっともっとお口にらしへえ♥ ずちゅうちゅうッ! ジュジュウウ♥」



怒張したままの肉棒を膣奥にまでゴチュゴチュと叩き付ける。

キャラル「あおおんっ♡ おほっ♡ オチンポとザーメンれ、オマンコいっぱい♡ ジュコジュコほじられりゅのらめえええ♡」

律動を始めるるとすぐ、膣内の粘膜はうごうごとと蠢き、幹に縋り付いてきた。

精炎「ザーメン、一滴残らず搾り出すつもりなんだなッ!」

キャラル「そうッ♡ オチンポきもちいひかりヤッ♡ ザーメン子宮れゴクンしゅるのっ、ハマっちゃっぴゃのおおお♡」

精炎「俺もっ、キャラルのエロマンコにハマってるぞ! 腰止まないからッ!」

キャラル「嬉しひ♡ あへええ〜♡ その言葉られイッひやう♡ せっくしゅされながら言われへ、ひゃハあああ♡」

「んへええ〜♡ はっ、あひゃっ、んひゃひゃア♡
子宮れイグのっ、しゃいこおおお♡ 子宮イギしゅごひィィ♡」



「きゃんんんウ♥ すっごひ♥ ひゃああ♥
熱々のザーメン出てるウ♥ おっぱいにきて
っ、ああ♥ おっぱいに中出ししてるウ♥」

ベルディア「んああ♥ 熱ひ♥ ザーメンっ、んんふ♥ 濃厚れすわ
ね♥ んふふ♥ プルブルれ、喉に引っかかりまふ♥ ゴクンッ!」
口中に溜まった雄汁の塊を舌で弄んだあと、ベルディアさんは生白い
喉を蠢かせて飲み込んだ。

キャルル「ひゃああんッ!? ママ、ずるイ♥ 私もザーメン飲むんだか
らあ! お口にちよーらい♥ はええ〜ッ!」

キャルルの要望にも応え、下腹部を突き出してドビュドビュと吐精す
る。

キャルル「ひゃあああ♥ しゅごひ♥ ザーメンお口にイ♥ んああ
っ、舌が火傷しひやう♥ んちゅうっ、んっく……ゴクっ♥ んひゃ、き
ゃふう♥」

キャルルまでぐびっと喉を鳴らして男汁を飲み下してしまった。

けれどキャルルは、まだ涼しい顔をしている母親とは違い、顔が淫らに
蕩けていた。



「ひゃふうッ!? んっあ♥ それはア……!
んひあッ、ゴリゴリに硬いオチンポがっ、おっ
ぱいをゴリゴリ……擦ってるウ♥ 熱いよお♥」

乳の狭間を膣穴のように扱われているというのに、キャルルは淫らに表情を崩し
て喘いでいる。半開きにした口からはだらしなく舌を放り出し、よだれもだらだら
と流して快感の渦に身を投じていた。

精炎「またミルクが出てきた! おっぱいマンコのセックスで、感じまくってるん
だなキャルルっ」

キャルル「感じるウ♥ ひにゃっ、ひゃああ♥ おっぱいマンコお、オチンポ
れゴリュゴリュ擦られへっ、しゅごいきもちいひイ♥」

いつもは素直じゃないキャルルが、快楽に溺れてしまっていることを自ら口にし
ている。このギャップにたまらない興奮を覚え、律動が止まらなくなる。

精炎「チンポろうそくも悦んでもらえて、準備してきたかいるってもんだ」

キャルル「チンポろうそくウッ、んひああん♥ いひイ♥ もっとおっぱいマンコ
に、ズブズブぶっ刺しへえ♥」





幹に絡み付くようなベルディアさんもいいけど、キヤルルの膣圧が高めの淫裂もすごいぞ!

精炎「ダメになっていいぞキヤルル! 今日ここに誘ってくれたお礼も兼ねてるから! うっ、ちゃんと満足させるからな!」

キヤルル「満足うっ、させへえ♥ ラストダンスれっ、ひああ♥ オマンコもザーメンいっぱいにしひええッ♥」

精炎「中出しがいいんだなっ?」

キヤルル「中出しきへほしい♥ ひゃあああん♥ オマンコの奥にっ、ザーメンビュルビュル出しへくらしやいッ♥」

キヤルルも呂律が回らなくなるくらい、愉悦に没している。とろとろになった顔を向け、淫らにも膣内射精を懇願してきた。

ベルディア「ああ♥ いけません! あたしを放っておくなんへえっ、らめれす♥ んひゃあ、ご立派おチンポさんっ、あたしともダンスを!」

精炎「わかりましたっ。まだラストじゃないから遠慮なく!」

キヤルルの膣から、ベルディアさんへと変更して律動する。

ベルディア「あひああ♥ そうっ、そこ♥ あなたのっ、マンコの中のおチンポダンスう、しゅごひيي♥」

肉槍を突き込んだ瞬間からベルディアさんは乱れ、アクメに囚われていた。

キヤルル「おチンポっ、こっちにも♥ 私とダンスしへえ♥ オマンコ使ってエロ舞踏くらひゃい♥」

「こらあっ、ダメえ! 今は私のオマンコに集中しなさいよお! ハアッ、ハアッ、ママに浮気しちゃ、やだア♥」





口内射精されて驚愕し、鷹美は目を大きくして慌てて唇を放した。解放された肉棒が乳の狭間で暴れ回り、精汁をあちこちに飛び散らせる。

鷹美「んひゃあああッ!? 精液っ、かかってえ!? ああっ、口の中にもお……♡ んくっ、ゴクンッ♡ ンはああ〜ッ♡♡」

栗の花の臭気が立ち上る汚汁を身体に浴びつつも、口に溜まっていた男汁を喉を鳴らして飲み込んでいる。しかもそれが相当においしく、また相当に高揚を得られたようで、まるで鷹美まで絶頂したようにビクビクッと仰け反っていた。

鷹美「あはあ〜♡ 射精っ、すごひ〜♡ 精液って……ああっ、おいしくてえ……っ、熱くてえ、興奮しちゃうのね……っ♡」

鷹美は乳房にギュッと圧力をかけ、精を搾り出そうとする。乳の肉突起からは、はしたなくピュピュッと母乳を噴き出させている。強い快楽の中にあるかのように、舌までべろりと突き出し、喜悅の表情を浮かべていた。

「あはん♡ 腰っ、震えちゃってるわよ? んふ♡♡ ハアッ、
 んん! そんなに気持ちいいのね♡♡ はんんッ♡♡」





(私……こいつの精液をオマンコで感じるの、クセになっちゃった！♥ そんなのダメよ！ダメ……ダメだけどっ、でもイイイイ♥)

鷹美「いくっ♥ ひぐっ♥ ンンっ、オマンコに精液もらっへイグうううう〜っ♥ ~~~~~っ♥♥♥」

鷹美は声にならない声を上げ、オーガズムに達する。引き付けを起こしたかのようにピクピクッと全身を痙攣させ、乳汁をビュチビュチと飛び散らせていた。

鷹美（中出しでイクのっ、すごイ♥ オナニーなんて比べものにならない♥ 気持ちよすぎてっ、私……アへっっちゃってるうう♥）
鷹美は淫楽に没入した絶叫を放ちながら、真面目な委員長としてはあり得ないほどだらしないアクメ顔を浮かべていた。

精炎「オナニーよりも気持ちいいって……ひょっとして俺のこと考えながらしてるのか？」

鷹美「そうっ、なによおオ♥ アンタのこひよ考えながらやオナニーしゆるのっ、イイかりやあ♥ ふええん〜っ♥（わっ、私っ、何言っちゃってるのよ！ でもっ、何もかも我慢できない！ こいつとのセックス、よすぎてダメええ♥）

オルガスムスのさなかにいる鷹美の心も、ノーガードになっていた。



「バカああああッ！ アンタに見られりゆのっ、らめなのオッ！
悔ひイのにつ、おしこつとまらなくへきもちいひイイッ!!」



鷹美「ひひひん!!? らめッ! らめええッ! チンポ動かひひヤッ!? 出ちや……ッ! あああッ、出ちやうからアッ!」
何を我慢しているのか、俺の頭の中にも鷹美の叫びが割り込んできていた。我慢を崩壊させるため、肉槍でズコズコと膣底を突き回した。

鷹美「いやいやっ! だめええッ! ひやめッ! もうっ、出……ッ!? きやああッ、ダメ出るッ!」

鷹美は首をふりふり、律動から逃げ出そうとする。でも身体は絶頂の余韻で痺れ、まったく言うことを聞かないみたいで、されるがままになっていた。

鷹美「ひやああッ? お願ひ待っへッ! いやっ、いやああッ! イイイイん!!?」





鷹美「乳首、二つとも吸われてっ、くはあ♥ 頭の中、ビリビリ痺れてるのにつ、腰までジリジリしてきてっ♥ きゃああ♥ 気持ちいいのオッ♥」

鷹美は嬌声を上げ、下半身をくねくねと淫猥に踊らせる。相当な快感を覚えているようで、目をとろんとさせ、口も半開きにしたまま何度も熱い息を吐いていた。

精炎「鷹美がエロ可愛いから俺も調子に乗っちゃうぜっ!」

じゅずっと思い切り吸い付き、陥没乳首を引っ張り出そうとする。

精炎「二つの乳首からミルク飲んでやるッ!」

鷹美「あひひい♥ おっぱい引っ張りながらっ、はッ♥ ああ♥ 母乳も吸い上げられてっ、んあ♥ 考えが……まともなくなるッ♥」

乳房を噛みちぎる勢いで乳先にしゅぶり付き、ぐいぐいと引っ張る。刺激によって漏れてきた乳汁を、喉を鳴らして飲み込んだ。

「味わわれてるッ♥ はああっ、アンタにおっぱい搾られてっ、くはあっ♥ チュウチュウ吸われてっ、味わわれてえ……私悦んじゃってるよお♥」



「かつ、母さん!? えろれろおっ♥ 舌あ、私に絡ませないれッ♥ レロレロベロンッ♥ 先が触れ合うひよ、ソクソクきひやう♥ レロロ♥」

汗と母乳が馴染んでズチュズチュと淫猥な音が鳴り、竿がズリズリと擦り立てられる。

麗子「ああ〜♥ おっぱいの中でドクドクと跳ね回るオチンポ、とても嬉しい♥ レロンッ、ベロンッ、レロロッレロロン♥ いつもこんら、立派なおチンポれっ、ぐちゅ、ベロレロお〜♥ ハア、娘をご指導、くらさってるのれすね……♥ はああ、れちゅっ、ちゅるッ♥」

鷹美「だっ、だから母さんっ、ベロベロっ、じゅる♥ いつもりやないっひやら! レロンッレロンッジュル♥」

精炎「いやいや、いつもだろ。鷹美は覚えが早くて、優秀なサキュバスですよ」

鷹美「ひゃああ!? 恥ずかしいことっ、言わないれってばあ♥ チュルチュルっ、レロンッ、レルレルルうっ♥」

文句を言うものの、鷹美は乳で摩擦し、舌をなすり付けることをやめなかった。



「子宮れもっ、チンポチユウチユウすりゅのお
 子宮れチンポ吸っへ、子宮れ精液飲むかりゃあ♡

おふっ、おっんう
 ンンンあッ♡」



鷹美「あオオオンッ♡♡ また中出ひきひゃ♡
 んおおお〜♡ 母乳もお潮もっ、まひゃ出ひや
 う♡ おほおおお〜♡♡」

子宮内で男汁を受け止めている鷹美は、はしたなく寄り目になってオーガズムに達していた。いやらしく垂れ下がる乳の先端からはピュピュッと乳汁を噴き、結合部の少し上の小さな肉穴からは放精するが如く透明の液体を噴出させていた。

鷹美「精液しゅごひィィ♡ 子宮の奥につ、ピチャピチャ当たっでえ♡ オンんん♡ 子宮イキシゅりゅウウ♡」

ガクガクンッと思うさま肉体を暴れさせ、繰り返し上り詰めている。激しく揺れる身体からは無数の粘液が放たれ、鷹美の全身は汁で汚れきっていた。



「オマン」のおもちやうい、
ンおおお♥ 擦れちゃっでえっ、
お♥ おお♥
アナリイキしながらオマン」も
絶頂しちゃううっ♥」

精炎「じゃっ、このまま出すからな！ アナル中出しッ！」

鷹美「おひんッ!? アナル中出しなんへっ、ダメええ！ 今っ、奥に精液出されたらあッくほおおおんッ♥」

ダメと言いつつも、鷹美は逃げ出したりする様子もない。それどころか嬉しそうに表情を蕩けさせ、俺の下腹にぶつけるように下腹部をくいくいと持ち上げていた。

精炎「アナルも中出ししてほしがってるぞ！」

鷹美「おほおんッ♥ それれもっ、ダメなのオッ♥ アナルの中あっ、精液きちゃったらア♥ あおおっ、もっとダメになっちゃう♥」

精炎「ダメになっていいぞ鷹美！ ダメにさせるッ！」

鷹美「そんなッ!? おひいッ♥ もう無理っ、んんぐッ♥ イク！ イク♥ アナル処女だけどっ、アナルセックスでイクううう♥」

鷹美はまたしても顎まで突き出し、身震いしている。切迫した声を上げながらも、なりふり構わず腰をいやらしくねらせていた。



「しゅいおおお、
中出し精液れオマン、
イクの止まらなひイイっ」

怒濤の勢いで飛び出す男汁に身体の芯を打たれ、鷹美はオーガズムに悶絶している。下腹に浮いた淫液を煌々と輝かせ、その下腹部を思うさまくねらせて、精を搾ろうとしていた。

精炎「大丈夫だぞ鷹美っ！ まだまだやめないから！ ザーメン、中出ししまくってもっとイカせまくるぞ、マスターとして！」

鷹美「イカせっ、へええ〜♥ マスターとしへっ、ひゃん♥ 従者を、可愛がっへえ♥ 従者イキシひやいのオオ♥」

柔乳がブルブルと揺れるくらい肉体を震わせ、乳頭からは母乳をビュビュッと噴き上げて派手に上り詰めている。クラスのみとめ役である真面目な委員長が今や、淫楽に墮落したアクメ顔をさらして悶えていた。

精炎「従者イキさせてやるぞ！ ほらっ、マスターチンポで子宮攻めっ！」

鷹美「ひオオん♥ イっへるときにっ、チンポが子宮にひイイ♥ 頭っ、おかしくなりそう♥ ンンっ、いぐウウ♥」

罌が解除される気配がないので、気合いを入れて抽送する。絶頂中の鷹美はさらに快感を積もらせ、恥じらいもなく果てていた。





「んぐああん♡
あつ、ああ♡
くああん♡」
みっ、見るなバカあ♡
母乳っ、止まらない……ッ！

鷹美 (こんなヤツのチンポで、感じちゃダメ! ダメダメっ♡ オマンコ、言うこと聞いてっ♡ 勝手にチンポに抱き付かないでえっ♡)

精炎 「マンコ気持ちいいなら、素直になっちゃえよ! 素直な方が鷹美は可愛いぞ!」

鷹美 「はんんウツ!? うぐうんッ! ハっ、ああ、感じ……なひィ……! チンポなんかにっ、うひゃ♡ 負けなィ……!」

こちらが投げた質問を理解せず、答える余裕さえなくしている鷹美は、自分に言い聞かせるように肉欲を退けようとしている。けれど内腿はピクピクと痙攣を起こし、ゆさゆさと揺れる乳先からもビュルビュルと母乳を噴き上げていた。

精炎 「搾乳機がゴボゴボ鳴って鷹美のミルク搾ってる! これ、マジでエロいな! 搾乳されて感じてる鷹美もエロいぞっ!」

鷹美 (おっぱいっ、搾乳されるのもダメよお♡ 母乳が飛び出すと、頭の芯までビリビリ痺れてっ、気持ちよすぎる♡ 何も考えられなくなるう♡)

あまりの快感に、鷹美はビクンビクンと大きく上体を跳ね上げる。同時に、豊満で柔らかい乳房もブルンブルンと揺れ動いた。



「はあッはあっ♡ ああんッ♡ 母さんが、私より先にイッ、んきゅあ♡ 孕んりやらめええッ♡」



麗子「おうんん♡ 精液ほしくへっ、おほオオオ♡ オマンコうねうねさへちやうのオ♡ おおおっ、チンポ汁うっ、ふほお、孕み汁ううう♡」
腰までくねくねと振り、もっと精を寄越せとばかりに膣肉が蠢動する。それに促されて肉棒をドクドクと跳ね上げ、膣壁にピチャピチャと雄汁をぶつける。

麗子「熱々のせーえきッ♡ おおおん♡ 子種汁もらっへえっ、へおおッ♡ また妊娠するッ♡ もう一度母親になるのおお♡」
すでに鷹美の親であるというのに、快楽に墮落してしまった麗子さんは娘の前でとんでもないことを恥ずかしげもなく口にしていた。

鷹美「あんん♡ 母さんが先なんへっ、らめよお♡ 私が先につ、ハアハアッ、妊娠させへもらんらから♡ んひああんっ♡」
羨ましそうにこぼしつつも、鷹美もいやらしく下半身をビクビクと踊らせ、軽い絶頂を覚えていた。どろどろの熱い愛液を撒き散らし、膣肉を指に噛み付かせてくる。

麗子「ごめんね鷹美イ♡ れも母さんっ、おほオ♡ 妊娠しひゃい♡ このおチンポ汁、美味しいのおおッ♡」

Chaltina Ruitgart

体操部に所属する甘えん坊のTcup下級生

シャルティナ・ルイトガルト

Chaltina Ruitgart [CV:花澤さくら]



身長: 153cm

スリーサイズ: B125 / W55 / H82

☐ ミュニケーションが苦手で、人前ではいつもあがっている状態になってしまう恥ずかしがり屋のサキュバス。リディアという異母姉がいる。ドジや失敗をすると母乳が出てしまう体質が悩み。魔力消費の激しい体質をしているため、精炎にキスで魔力をもらうことを日課としている。



「まあ、本当をいうと次の授業は苦手な数学なので、サボリたかつたんですけど……えへへ」



FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



「あっ、ああっ♡
先輩のおチンポミルクで、
シャルのこと、もっとなぐってやるわ……
んあっ、ああっ、あああああッ……」

シャルティナー「はふっ、くっ、あああッ！ ああっ……んっ、んぐっ……やあ、おマンコ、びくびくッ……くあっ、あっ、あああああッ♡」

精炎「ヤバい、射精がとまんない！」
シャルの膣内がドロドロになるほどザーメンを注いでもなお、腰の震えは増すばかりで、射精の勢いは衰えない。その勢いをすべて、快感とともに膣の最奥に叩き込む。

シャルティナー「はあっ、あっ、ああっ……♡
らめ、れふっ……ふえんばひっ……そんな、しちゃっ、あっ、あああッ……♡」

シャルの呂律は思いっきり怪しくて、いまにも気を失ってしまいそうなほど頼りない。そんな彼女の膣奥をここまで激しく攻められるのも、突き上げるたび、彼女が幸せそうな顔をするからだ。

精炎「シャル、気持ちいいか♡」
シャルティナー「ふあいつ♡ しゅごひ、しゅごごーひっ、気持ちいい、れふっ……♡ せんぶあひ、だあいしゅきいっ……♡」



「あいっ♥ とろっとろの濃厚なミルクが、くひ、いっぱいひろがって……んむんむ、んまあ、おいちっ……♥」

シャルティーナ「先輩のおチンポ、すっごく、おいひい……♥ この味も、この匂いも、もっと、もっとお……べろ、ぢゅぶ、ぢるるうっ♥」

精炎「イクッ!」

シャルティーナ「ひゃうっ!? 熱いの、びゅくって……んあっ、はあっ、あっ、ああああああっ♥♥ あそこが、ビクラッ♥ って……はんっ、ああっ、先輩のミルク、ちゃんと飲まないっ……」

ほとんど暴発するような感じで吐き出した精子が、シャルの柔肌を真っ白に染め上げていく。



シャルティーナ「おマンコおつゆも、おっぱいみるくも、いっぱいいっぱい、びゅばあーって……んあっ、ああっ、あああああああああっ……♥♥」

俺と同時にイッたシャルは、全身を激しくぶるるっつと震わせたあと、絶頂の余韻を楽しむように目を細める。飛び散る汗と母乳に潮吹きまで加わって、シャル特製の甘い蜜が、シャワーのように降り注いでマジでヤバいっ!

精炎「あああっ……! シャルんなか、すごい熱いっ……! チンポが煮詰まってくみたいだっ」

シャルティーナ「えへー、えへへ……♥ だっていま、私のおマンコには、先輩の濃厚な精子が、ははあ、たあーっぶり、入ってますからあ……えへ、んふふっ♥」

「ふえんぱひのおチンポ、おマンコの一っばんおくに、ごちゅーん♥ごちゅーん♥ って……あっ、それ、それ好き、しゅき、だいしゅきっ♥♥」



「やあっ、やあっ……♡
お願い、見ないでっ……
先輩、見ないでください……♡
お漏らしなんて見られたら、
私、恥ずかしくて……
あああああ……♡」

精炎「遠慮せずにおしっこしちゃっていいぞっ、シャル！」
シャルティーナ「?!?!?!?! せせせ先輩、なんでそれを……って、あひっ!? やあっ♡ ああっ、く、口にしたら、尿意がじゅわわって……ひううっ♡♡ やうっ、だ、だめっ、このままじゃ……ひぐっ、あああっ♡♡ こんな格好でおしっこなんて、あっ、ああっ、あああっ♡」

精炎「それぞれっ♪」
シャルティーナ「んやあっ!? ちょっ、せんばひっ、ばいぶ、ぐりって、し、ちゃっ……んああっ♡ らめっ、いく、いぐうっ……! ああっ、あああああああっ♡♡♡ ンああアッ♡♡ あっ、ああッ♡ おひっこ、おひっこがああ……あああっ、ああっ、ふああああっ……♡♡」





精炎「いいイキっぷりだったぞ、シャル。いまのイキっぷりに、測定器もスタンディングオーバーだ」

シャルティーナ「測定器、って……あ、ああ、ああああああ……♡先輩のおチンポ、ホントに、さっきよりおっきくっ……ああ、ああ……♡」

おっぱいイキでさらに愛液を滲ませた割れ目を擦りつけることで、シャルがチンポの状態をチェックする。シャルほどの大きなおっぱいと、体勢次第では自分の股間を見ることも難しい。だからこそテクニックだ。

精炎「シャルのイキっぷりがエロかわすぎて、測定器の力はぶっくり膨らんで、亀頭なんてパンパンだぞ」

シャルティーナ「パンパンの亀頭に、ぶっくりの力……♡ ああ、すごい、すごい……♡ 想像しただけで、おまんこが、熱くっ……ふう、ふう、はああ♡」

見えないシャルに代わってチンポの状態を教えると、彼女はそれだけで火照った息を吐きながら身悶える。

「いまだって、お腹の奥が、すっごいうずいて……
はあ、ああっ……♡先輩、お願いします、もっと
もっと、私のおっぱい測定してくださいっ……♡」





「ふはっ、ふはあっ♡ 先輩のおチンポ、ガッチガチにあふくてっ……んま、れろっ……やはっ、ふああっ♡ すっごい濃いのが出そうれふっ……♡」

膣口はもちろんアナルまでひくついて、あのシャルのマンコがこんなに蠱惑的かと思うと、俺は、俺はッ……!!

シャルティーナ「んふっ、ふえんばい、イキそーなんでふねっ? えへっ、いいれふよっ? わらひのおくちに、いっぱい、らしてくらひゃいっ♡」

精炎「な、なんだとっ……!? シャル、俺がイキそうなの、わかるのかっ?」

シャルティーナ「ふあい♡ ふえんばいのおチンポが、こんなふうに、びくびくうってなってるときは……あむっ、ちゅっ、イキそうになってる、しょーこれふっ♡」

チンポをくわえたまま微笑んだシャルは、おっぱいをぎゅぎゅっと寄せながら、さらにチンポにむしゃぶりつく。

「あんっ♡ もう、ダメでちゅよ? ママのミルク、お口からこぼしてっ……ちやーんとあーんして、せーんぶ、ごっくんしてくだちやいねー?」

シャルティーナ「バキバキに勃起したおチンポ……はあはあ、いつもの先輩のおチンポとおなじぐらい、ぶっとくて、硬くて……ああ、ああ、あああ♡ やあっ、らめ、らめえっ……♡ こんなおチンポにぎにぎしてたら、ママまでっ……はあはあっ、ああっ、ママまで一緒に、イっちゃいまちゅううう♡」
甘ったるい吐息を吐き出すシャルの顔は完全にとろけて、口の端から垂れたよだれが、だらしなく垂れる。

精炎「ママ、イキたい? イキたいの?」

シャルティーナ「んっ♡ お願い、ボクちゃんっ。ママもいっしょにっ、おチンポと一緒にイッていーいっ? どびゅどびゅ射精するおチンポと一緒に、いつもみたいに、おっぱいミルク、びゅーびゅーしてもいーいっ?」





精炎「シャル、シャルっ……！ シャルのマンコ、すっごいすっごい、気持ちいいぞっ、最高だぞっ！」

シャルティーナ「せんばいのおチンポだって、しゅっごいしゅっごいっ……くあっ、くああっ♥ らめっ、膣内、そんなにぐぼぐぼかきまぜちゃっ……やあ、あああッ♥」

精炎「チンポで掻き混ぜずにはいられないぐらい、シャルのマンコはすっごいんだっ……!!」

チンポに血が集まりすぎたせいなのか、貧血みたいにクラクラする頭で、バカみたいにひたすら腰を振る。そのシンプルな動きが、滅茶苦茶に気持ちいい。

シャルティーナ「きゃふうッ♥ ふおっ、おっ、んおおうっ♥ おチンポくりゅっ♥ いっちばんおぐに、またっ……しきゅーいっばい、せんばいおチンポお♥ んおおっ、おふっ、おああうっ♥ ふぐうっ、ふあんッ、ひくっ、んあああッ♥ あふっ、ふああっ、んあうっ、んあっ、んあああうっ♥」

ヒダ自体が溶けたロウソクのように絡みついてくる膣内は、形を変えながらチンポを包み込んでいく。身体が覚えるなんていうけど、まさしくそれで、シャルのマンコは俺のチンポの形を覚えようとしていた。

「んひっ、ふにやああッ♥♥ びゅーびゅーきたああっ♥
せーし、せーしせーしい♥ しきゅーに、びゆるびゆるう……
んふっ、ふうううっ♥♥」





「ああああっ♡ 私もっ、私も先輩のおチンポ、大好きですっ♡♡ だからもっと、もっといっぱい、ママよりたくさん、おマンコ」犯してくださいっ♡」

ライラ「ひゃぐッ、あああッ♡ おマンコいっぱい、せーえきどぶどぶう……ふあッ、んあうッ♡♡ 濃いたっぷり、奥まで届いてっ……やあんっ、孕むっ、孕んじゃうっ♡ 誕生日プレゼントに子種で、赤ちゃん孕んじゃうのおおっ♡♡」

奥まで押し込んだ龟头から、子宮目掛けて精子を放つ。悦びに震えるライラさんの膣の締めりは凄まじく、押し込んだチンポが、じりっ、じりっ押し戻される。チンポを一気に引き抜いて、俺を待ってるシャルの膣内に押し込む。

シャルティーナ「ひぐッ、うきゅううッ♡ びゅくびゅくおチンポ、ぐっぽりハマって……ふあうッ、子宮とキス、いっぱい、ちゅちゅしてっ……んあッ、ああッ♡」

ライラさんの膣口からあふれるほど射精してもなお射精を続ける精子が、シャルのマンコも満たしていく。

ライラ「ああ……♡ シャルちゃんのおマンコも、彼のザーメンでたぶたぶになって……ほら、見て？ わたしたちのおマンコ、お揃いよ？ お揃いっ……♡♡」

シャルティーナ「うんっ……♡ 先輩の子種で、種付けられてっ……わらひのおマンコも、ママとおそろいに、なっぴやったあ……♡♡」



Kyunkyun na Olganite

魔法銃射撃部所属の凛々しいRcupダークエルフ

キュンキュン・オ オルガナイト

Kyunkyun na Olganite [CV: 綾野莉音]

身長: 170cm

スリーサイズ: B123 / W59 / H91



「お前のは度が過ぎてい
いや、サキュバスのには好ましいとして、
私の理想と全くの逆！認めない！」

R- cup

オルガナイト族の族長の娘。種族的には犬猿の仲だが、ハイエルフのエルゼとは睦まじい幼なじみ。ライバル関係でもあり、精炎を巡ってはヤキモチ合戦を繰り広げている。はしたないことを苦手としていて発育のいいお尻が悩みだが、強い子孫を残したいので子作りには興味津々！

FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



「くっ、そうだ。オルガナイト家の娘として……こんな卑怯なバックアタックに屈するわけにはいかないんだあっ♡」

キュンキュン「う、受け入れられるかっ！ こんにゃ、突然ぶち込んでっ！ んはあっ♡ 初めてのエッチが、尻でだなんて……んんっ♡」

精炎「そうか、初めてのキスもアナルセックスも俺がもらったのか……嬉しいぞ。ちゃんと気持ち良くしてやらないとなっ！」

キュンキュン「にゃ、にゃんで、そう、なる……んん、ああ、あああ、んん、そうやって、気遣うなら抜いてくれっ!! 今すぐにつ!!」

キュンキュンが悶える度にアナルの感触がチンポを責め立てる。

精炎「初めてで戸惑うのはわかるが、断る！ それに本気でぶつかり合えばわかり合えるって言ったのは、キュンキュンだろっ」

キュンキュン「それはあ、あん、競技の話であって、んんっ♡ 尻でパコパコすることじゃ……♡ ああもう、腰を止めろおっ♡」

精炎「そんなの無理に決まってる。サキュバスがアナルをほじられて感じているのにやめるとか、むしろ無礼だろっ」

キュンキュン「そ、そうだけども……ああ、一度挿れたおチンポを、自分から抜いて欲しいなんて、サキュバスの名折れだけれどっ♡ うう、うう……んっ」





「あふ……ん、んふう、きてええ……
ああ、子宮にもディープキスしれええ♡

そのまま精液らしてええっ♡♡」



これが、子種を求め乱れるキュンキュンの姿……！ ああ、
こんなの膈内出しするしかないっ！ この膈内に、全部注ぎ
込みたいっ！！

キュンキュン「ああ、んふあ……はあはあ、また目があっちゃ
っらあ♡ だらしな顔でチンポ受け入れてる顔見られ放題
いっ♡ でも、でも、あああ、おマンコ気持ちいいのとまらない
のお♡ もっとしてくれえ♡ 子宮ノックしてええ♡」

エルゼ「あのキュンキュンが……ヨダレ垂らして、めちゃくちゃ
気持ちよさそうにアへってる……ふふ♡」

気が付けば、エルゼだけじゃなく、クラスメイト達も集まって、
キュンキュンの初めて見せる痴態に見入っていた。誇り高い
ダークエルフ族の娘が、初めて見せた卑猥な表情に、みんな
戸惑いながらも夢中になっているようだ。

キュンキュン「んふあ、ああ、みりゆなああ♡ おマンコ、ジ
ュボジュボされて、メスの悦び教え込まされてるの、みりゆん
じゃないっ♡」





「はあ……ん♥ もっとノックしてえ♥
子宮起こしてっ♥ 今から妊娠させるっ
て突きまくってくれえっ♥」

キュンキュン「んほお、あ、おおっ♥ んあ、おおおっ♥♥♥ 出てりゅう
♥♥ 私の一番奥に子種びゅーびゅー♥ きてりゅうう♥」
これ以上ないくらい腰を押し付け、一ミリの隙間も許さないよう密着して、白濁
を注ぎ込んでいく。ふおおお、おマンコがスゴイ、吸いついてくるっ……脚を掴
んで引き寄せる必要なんてないんじゃないか、コレっ。
キュンキュン「んんお♥ まら出してる♥ 射精長いっ。ふお♥ らめえ、
子種漏れちゃうからあ♥♥」



「はあ、はあ……セックスっれ……こん
なに、汁まみれになるのかあ……♥
しらにやかった……♥」

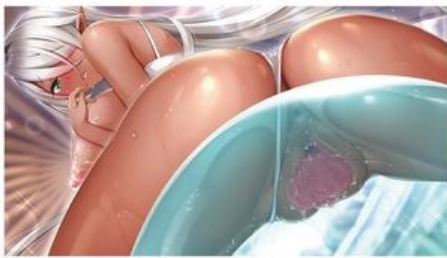
キュンキュン「ひう……んん、んぐ、ああ♥ らめらめらめ、イカされる♥
もうイキたくにやいのに♥ いきゅ、いきゅうううううラッ♥」
戸惑うおマンコに精液を注ぎ込んでいく。あっという間に膈内から精液
が溢れ出して逆流してくる。零れているのもお構いなしに腰を押し付け、
子宮を龟头でプレスしたまま、最後の一滴まで注ぎ込んでいく。
キュンキュン「ふあ、ああー！ あーっ♥ 新しい精液で、またいっば
いになってるう♥ ああ、まだ中れびゅーびゅー、でてりゅっ♥ ん、ん
ん、あ、ああ、だめえ♥ 容赦なしの射精でおマンコオーバーキルされり
ゅうう……あ、ああ、あああっ、んん♥」





精炎「ふおおお、突然のパキューム……っ！ そんなに精液が欲しかったのか？」
 キュンキュン「なにを……んん、んぢゆるっ。挨拶がしやすいように、綺麗に、んぢゆる、掃除している、ただだ……んん、じゅりゅっ」
 掃除とは思えないほど、丁寧に吸ってる気がするんですが……。ああ、そこ、中まで全部お願いしますっ！ もっと激しく吸って……おおおっ！
 キュンキュン「ん、んふう。じゅりゅ、んぶぶ……んぐ♥ んん、ん……ごくんっ♥」
 精炎「もしかしてキュンキュン……飲んだのか？ それも、掃除ってやつか？」
 キュンキュン「ああ……こんなどろり超濃厚な精液、その辺に捨てるわけにも行かないしな……多分、ティッシュでくんでも匂い立って、並のサキュバスなら狂ってる」

「よし、このまま、んん、じゅりゅ、出させてやる。だから……んん、また、いっぱい飲ませろっ♥ さっきより少なかったら、しょうちしないんだからあ♥」



キュンキュン「ん、んふああ、ああ、子宮口♥ チン先でグリグリされりゅのしゅきらあっ♥ もっろしてくれえっ♥」
 精炎「ここまで頑張ったご褒美だ、存分に味わえっ!!」
 キュンキュン「んふう♥ チンポしゅごいのおっ♥ きてりゅ、子作り子宮キスしちやつてりゅ♥♥」
 おおお、なんて吸い付きっ。まるで、子宮口から求められてるみたいだっ。ただでさえ暴発しそうなのに、こうも熱烈に押し付けられては……そう長くは持たないぞ！
 精炎「ああ、チンポが全部気持ちいいっ！ やばい、止まらない……！ これが、サキュバスマンコ……!! 最高だっ！」
 キュンキュン「ああ、お前のチンポもしゅごいからあ♥ こんなに気持ちいいチンポ、絶対離したくないっ♥」

「あっはあぁッ♥ 子宮にたっぷり精子吐き出しれっ、孕ませてくれええッッ♥♥」





「精液をべっとりと
お尻にかけて……
まだでている♡
クッ♡ 授業中なのに
どれだけ
射精しているんだっ、
変態めッ!!」

キュンキュン「ま……待て♡ 今は授業中でっ、んん、んはあ、ああ、ダメだっ♡ さすがに挿入まではやり過ぎ……ン!!? んふやああああああっ!!!? んひ、ああ、尻の穴にチンポ入ってきたああ……ンン!!!」

精炎「声大きすぎっ」

キュンキュン「はあー、はあーっ、そんなことを言われてもっ、ああ、尻が熱いい♡ ふあ、あああっ……っ!!!」

許容範囲を超えたのか、キュンキュンのエッチな喘ぎ声が大きく響くと、沢山のクラスメイト達がこちらを振り返った。

キュンキュン「ウソだろ、もっと奥に入って……くひいい♡ やめろお、みんなの前で私のアナルをこじ開けるなあ♡ ンン!!!」

精炎「でも、前よりはスムーズで、チンポを奥まで飲み込んでいくぞっ」

キュンキュン「そ、そんなことはない……んん、今回は感度増の魔法なんて、かかってないからなッ」





「そうじゃなくて……今日だけじゃなく
……これからも毎日いっぱい作りして
くれっ♡ 赤ちゃんがいっぱい
ほしいんだっ♡」

キュンキュン「はあッ♡ 今チンポがグリッて刺さられるところに、お前の
精液、いっぱい搾り出してえッ♡」

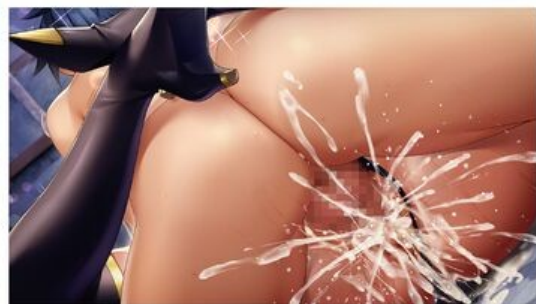
精炎「あ、ああ、もう限界だっ!」

キュンキュン「んん! イキまくりのドスケベマンコレっ、赤ちゃん孕みますうう
ううッ♡♡ くおおおおッ♡ おおおつ、はへっ♡ はへえ……あッ♡
ああ……んんッ♡♡」

絡みついている脚もさることながら、おマンコがコレまでで一際激しくしゃぶりつ
いてくる。ああ、射精が長い、止まらない……これ、絶対全部搾り取られてる
っ。

キュンキュン「んう♡ ふああ、中でチンポ跳ねれりゅのお♡ んん、んふッ
♡ 気持ちよしゆざりゅう……♡」

もはや、射精の反動で跳ねるチンポですら絶頂スイッチになってしまってるみ
たいで、イキまくりじゃないか。





「あ、あ、あ、あ……お母様のこゝもきゅん
きゅんちよくしてあげてえっ♡一緒に気持ちよ
くなりたいのお、はあ、はあ、はあ、ああ、ああ、んんん♡」

アンアン「ああああ♡ アナルセックスも最高れすのお
おっ♡ ん、んふ、あう、んああ、んはあ……っ♡♡」
キョんキョん「ひう……ん♡ アナルいいっ♡ ん
ほお♡ お尻が壊れちゃう♡ んはあ、ああっ!!」
母娘のアナルを交互に行き来する。何度も何度も二人の
尻穴を交互に貫く。マンコの感触も違ってしたが、肛門
や直腸の感触も違うものなんだな。母娘なのに面白い。

アンアン「ん、んひい……ひああ、あ、ああ♡ あ……
ああ、ひゃうんっ! お、おひりの穴、ひらきっぱなし
い♡」

族長の威厳はどこへやら、アンアンさんはアナルを俺に
支配されて、だらしくアへったままになっている。

キョんキョん「ああああ♡ 掘げられると裂けそうで
ちょっと怖いのも、でも、ああっ、でも、それがいいの……
♡ はあ、ああっ♡」

キョんキョんも負けじと淫らな声を張り上げる。



Elze Eve Dianta

マジックアーチェリー部所属の
あほカワイイPcupハイエルフ



エルゼ・イヴ・ ディアンタ

Elze Eve Dianta [CV: 風鈴みすず]

身長: 157cm

スリーサイズ: B117 / W57 / H87

Pcup

「子作りの仕方くらい知ってる
わよ、バカにしなさいでよね!
いっぱいキスするとドラゴンが
赤ちゃんを運んできて
くれるんだから!」

ディアンタ族の族長の娘。ダークエルフのクンクンとは幼なじみであり、ライバル。そのため、お互いが好意を持っている精炎のことでよく喧嘩をしている。手料理や裁縫が得意で女子力は高いものの性知識は未熟で、いざ子作りを実践しようとするとうるはしさに襲われ固まることが多い。

FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



これ以上こぼれるのは勿体ないとばかりに、生白い喉をうごうごと蠢かせて汚い汁を飲み込んでいく。普通的女子なら嫌悪する精汁を、さもおいしいがごとくゴクゴクと喉を鳴らして嚥下していた。

エルゼ「さっきのお汁よりっ、断然濃ひイ♥ ぐっん♥ 精液っ、甘くへ、しょっぱくへっ、やらひい味れ、んんっ、止まらにやひ♥ んふっ、んん♥ ちゅぶちゅぶ♥」

精炎「くあ……ッ!? 出してるときにしごいたらッ! また出るッ!!」

エルゼ「あひゅッ!? んぐんん♥ まひゃ精液れたア♥ んちゅうっ、ジュルジュル♥ ぐちゅん、んん♥」

射精の勢いがおさまる頃合いに乳と口の強い奉仕を受け、もう一度ドブドブと汚汁を噴き出させてしまう。精飲して高揚が増しているエルゼは再び口内で精を受け止め、低い悲鳴を上げながら下半身をくねらせていた。

**「ゴクん……♥ んっく、んんウ♥ んっば……ハアハアッ♥
ダーリンのチンポ汁う、んんあ、しゅごいい♥ 頭がくらくらしちゃう♥」**

エルゼ「チンポちゅよいのすきゅい♥ 強いチンポおっ♥ マンコを壊しゅくらいずんずんくりゅチンポっ、ダーリンチンポ大しゅきゅい♥」

発情した声色で淫猥な言葉を連発し、自らも尻たぶをくいっくいと振り回す。粘液でぐちゃぐちゃになっている肉道は凄まじい膣圧がかかっており、陰茎を出し入れするたびにギョポッギョポッといやらしい音が鳴っていた。

精炎「マンコがグチョグチョいいまくって、くおっ、たまらない……ッ!」

エルゼ「わらしもおっ♥ マンコからどしゅけべな音おっ、はへへえっ、チンポれ鳴らしやれへたまらにやひッ♥ きゃああんッ♥♥」

再び悲鳴を上げたエルゼが、ビクビクッと背中を波立たせて快楽の頂きに達する。淫魔としては情けない、口を半開きにしてよだれまでこぼしたアクメ顔を披露していた。

**「タマタマれちゅくっへりゅザーメンっ、
ぜーんぶマンコにもらウっ♥ ダーリン
のチンポ汁はっ、全部わらしのものお♥」**



イヤイヤと首を振りながらも、エルゼは断続的にアクメに襲われ、何度も絶頂に身を委ねてしまう。

エルゼ「ふあっ、ふあああっ、んっ……はああん♥ も、もっと、いっぱい吸ってえ、ダーリン♥ ンっ……はううっ……♥」
恍惚の表情で熱い吐息を漏らし、甘い声でおねだりしてくるエルゼ。その通りにチュウチュウ吸いまくってやると、ガクガクと痙攣してまたも絶頂を迎え入れる。

エルゼ「ああん、イっちゃうっ！ イクっ♥ またイクのっ……敏感乳首ねちっこ責められて、イキまくっひやううっ♥♥ あああああんっ♥♥」

何度もピクピクと身体を跳ね上げつつ、喘ぎ声もどんどん大きくなっていく。恥ずかしさよりも気持ちよさが上回ってきたようだ。



「はひっ、あうっ！ ンああっ、ミルク噴いてるうっ！ うっ、はひっ！ あああっ！ 恥ずかしいっ♥ ンあっ、ああうううっ♥」



エルゼ「はあ……っ♥ ダーリン、好き♥ 私、ほんとにダーリンのこと、大好きだよ♥ ダーリンの精液で、ザーメンで……孕みたいの♥ ……ちゅ♥」

ズリズリッと肉体を擦り付けながら顔を近付けたエルゼが口付けしてくる。

精炎「チンポを放さないなんて……マジで孕む気満々だなっ！」

エルゼ「そうらよ♥ んちゅっ、ちゅふ♥ ダーリンじゃなきゃ、やらもん♥ んはっ、ハァ♥ ダーリンに孕ませへほしイの♥ ちゅむむっ」

唇を合わせ、擦り付け、吸い付いて、ハイエルフ淫魔が淫猥な懇願をしてくる。エルゼのような美少女に妊娠させてほしいとねだられ、肉茎はより血を吸い上げて充血し、硬く、さらには大きくなった。

エルゼ「はちゅっ、んちゅう♥ 孕むためにイ、んん♥ ザーメン、マンコの奥にちょーらい♥ チンポからビュウッて、子宮の中いっぱい流し込んれっ♥」

「ひゃああん♥ 射精チンポっ、すっごいビュクビュクしてるウ♥ はっ、はあ♥ 私も興奮して……ミルク出ちゃうっ、ダーリン♥ ダーリンっ♥」



「きやうあッ♡ ああん♡
がちがちのチンポがつ、ひああ♡
マンコをゴリゴリってえ♡
中、抉れちゃうウ♡」

蠢動して狭まる膣道をぐじゅぐじゅと肉棒でこね回し、子宮口をドスドスと突き回す。

エルゼ「あひゃ♡ ああ♡ イひっ、イっちゃ♡ いやあ♡ 子宮ちゅかれへっ、あんならッ♡」

絶頂寸前で掠れた声を放つエルゼは、呂律まで回らなくなっていた。

精炎「イカせるッ！ 子宮イキさせるっ！ 子宮にザーメン浴びせるからなッ！」

エルゼ「ひイイいッ!? チンポがジュポッへっ、ほひひい♡ 子宮にしゃしゃっでりゅうッ♡ ほんひよに子宮イキシひやう♡ ダーリンもっ、あひゃあ♡ ダーリンもイッへえ♡ 子宮にせーえきちよーらひ♡ 赤ちゃんのお部屋に赤ちゃんの素お、ドピュドピュらしへえ♡」

精炎「わかってる……ッ！ チンポを子宮に差し込んだまま……ふんんッ!!」

腰を捻り、限界まで膨張した龟头で子宮の肉口をグリンッと抉り立てた。





「ああっ、ああー♥ マンコがいつぱひの精液
 れっ、へああっ、重くなっへりゅう♡ 赤ち
 やんの素お、溜まっへきへりゅう……っ♡」

エルゼ「あひゃああ♥ マンコからビュビュっひえ、お汁が止
 まりやなひイイっ♥ ひひゃあっ、お漏らしめえええ♥
 ♥」

精炎「それはお漏らしじゃなくて潮噴きだよ。女の子が気持ちよ
 くなりまくったときに出るんだ!」

エルゼ「んひゃああ♥ れもおっ、潮噴きもっ、みんなに見ら
 れへ恥ずかしいのおっ♥ 潮噴きしながらイクのっ、いひゃああ
 あっ♥」

羞恥心に身を焦がしつつも、エルゼは淫楽に濡れた悲鳴を何
 度も上げている。机にぐいぐいと押し付けている乳房の先端か
 らは、ビュルビュルと母乳まで噴き上げていた。

精炎「潮噴き絶頂だけじゃなく射乳絶頂まで! エルゼはほん
 と、セックス優秀者だな!」

エルゼ「らめらめっ♥ ミルクまれ出しへっ、恥じゆかしすぎへ
 おかひくなっひゃうよ♥ ふえええ〜♥」

恥じらいが興奮に変わって快楽を倍増させるらしく、エルゼは
 繰り返し頭をガクガクッと反らして上り詰める。乳先から飛び出
 た白濁液は机だけでなく、床まで汚していく。母乳と精臭が一
 気に濃度を上げ、鼻腔の奥から進入して脳の芯を直撃した。





「そんならっ、ハアハア！ らめえ！ ダーリンに
孕ませへもらうのはっ、あふう、私が先なんれすう♡」

エルゼ「あひゃあああ♡ 約束のザー
メンらあ♡ 赤ちゃんの素おっ、おひん
♡ 子宮にいつふあいそしょがれりゅう
♡ 子宮が重くなっえ、ぎもぢイっ♡
♡」

ヒクつかせていた乳頭からビュッビュッ
と母乳を噴出させ、己の肌を汚すよう
に撒き散らす。達しているエルゼはその
僅かな刺激でさえも快感であるかのよう
に、内腿までビクビクと痙攣させていた。

ヘルロゼッタ「おふん♡ まだあ♡
私はまだ足りなひ♡ ほおっ♡ はあ
♡ もっと子宮イキ頂戴♡ 孕ませて
もいひい♡」

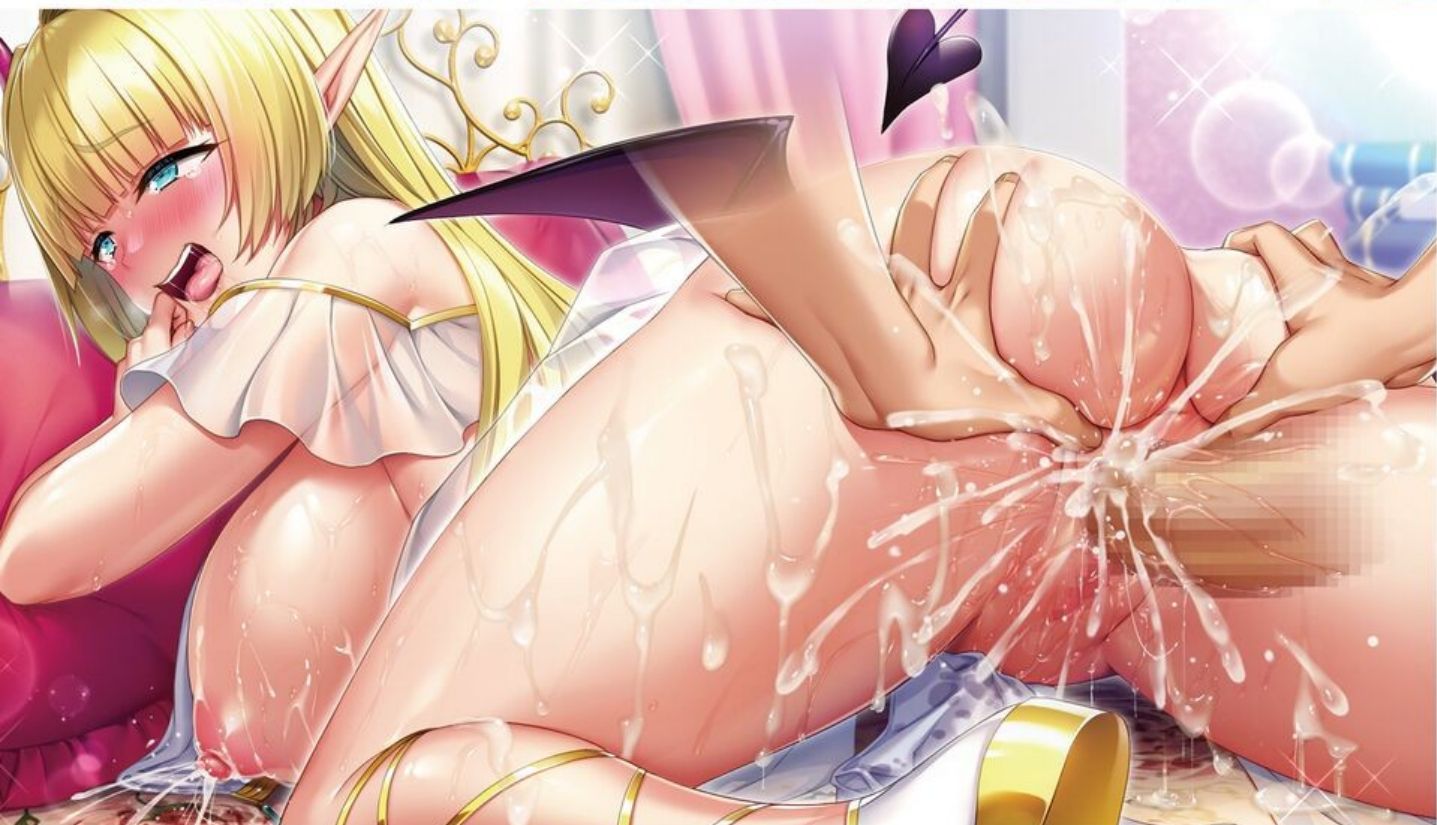
精炎「神様を孕ませてもいいとかっ、神
対応過ぎるッ！」

淫魔神にねだられて興奮し、再び女神
の陰奥に肉槍を突き込んで射精する。

ヘルロゼッタ「おほほん♡ これこれ
え♡ ほおおっ、ザーメンぶつけられへ
っ、おおおっ♡ 子宮が熱くなりゅ感
覚っ、子宮が痺れりゅイクううッ♡
♡」

子宮口に食い込ませてぶっぼぶっぼと
音を立てるがごとく中に流し込む。ヘル
ロゼッタ神は尻尾をピンピンに立て、
尻たぶをこちらに押し付けながら愉悦
の極みに至っていた。





「ダーリンのあちゅいザーメンがあっ♡
いっぱい来てりゅよおっ♡ビチャビチャ
っていっぱいいい♡♡♡んひゃあああっ、
射精終わらないいい♡♡」

エルゼの蜜壺に突き刺した男根が、たっぷりと熱い精を吐き出した。

エルゼ「ひいっ、にやからしいっ♡ いっ♡ いっ♡
♡ あああっ、イクうっ！ くはあっ、イクっ！ はああ
あああっ、イクうううっ♡♡」

膣内が猛烈な勢いで締め、剛直を強く圧迫してくる。

エルゼ「んっ、ひああああんっ♡ ダーリンにいっぱい中
出しされて、あたしイクっ♡ き、気持ちよしゅぎるううあ
あっ♡♡」

さっきのオナニーの時よりもずっと深い絶頂に達するエルゼ。嬉しそうに声をあげながら、身体をガクガクと激しく痙攣させている。

精炎「エ、エルゼっ、そんなに動かれたらっ……！」

射精している最中でもエルゼはお構いなしに腰を振り続ける。しっかりと密着しているので抜けることはないが、媚粘膜でずっと扱かれ続けているため、射精が終わらない。

エルゼ「ああっ♡ にやかにいっぱい出されてるうっ♡
あはあっ♡ あはあああっ♡ ダーリンのしえいえきあち
ゅいよおっ♡♡♡ アツアツのザーメンが子宮まで入ってき
てるよおっ♡ 溜まってきてりゅっ♡ 子宮にいいっ♡
あっ、あんっ、イクっ！ くうんっ♡♡」

エルゼはこちらの大量射精に負けないぐらいの潮や母乳を噴いている。もうシーツがビショビショだ。



エルゼ「ママったら、すっかりダーリンのおチンポがお気に入りになっちゃってるう……。ぶうぶう」
ジト目で母親を見つめるエルゼ。怒っているというよりは、すねている。ほっぺたをプーッと膨らませているのが可愛い。可愛すぎて死にそう。

ファビオラ「はあはあっ、おチンポにご奉仕しながら自分でおマンコイジってたのお♥ だから準備万端だったのよ♥ あふっ、あ、ン、ン ああっ♥」

確かにファビオラさんの膣内は愛液でスルスルにぬめっていた。チンポが濡れてしまいそうなほどだ。

ファビオラ「んふっ♥ あっ、あふうっ♥ ンっ、ンン♥ ああっ、もう、セックスが久しぶりすぎてえ……。♥ つい、がつついちゃったわあ♥ はふうんっ♥」

エルゼ「むう……。それはわかってるけどお……。ンむう、ダーリンのがズッポリとママの中にハマってるう……。気持ちよさそう……。ぶうぶう」
まだヤキモチをやいているエルゼ。これはいかん、そろそろ相手をしてやらないと根に持たれそうだ。

ファビオラ「はいはい、エルちゃん、ごめんなさいね♪ ママがエルちゃんのこと構ってあげるから、ご機嫌直して頂戴♪ ほらほら、ちゅっちゅっ♥」

「もうっ! 後でエルゼのことも気持ちよくしてくれなきゃダメなんだからねっ。ぷんぷん!」



Celestia Laciell

闘剣部に所属するドMのQcup聖騎士

セレスティア・ラシエール

Celestia Laciell [CV: 叶一華]

身長: 162cm

スリーサイズ: B120 / W57 / H87

Q-cup

「はあはあ、嘘をつくなら！
 貴様のその肉欲に又ラつきたいやらしい瞳！
 わ、私を、辱める方法を考えたりしているに違いないッ！」



パラディン属性を代々受け継ぐ名家出身の同級生。騎士道精神が強く、毎日剣術の鍛錬に励んでいて、負けず嫌いでまっすぐな性格。ただ、本能的に不埒な行為を妄想してしまうことが多く、エッチな話やセクハラ行為には新鮮な反応を示す。家事手伝いといった花嫁スキルは皆無。



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



セレスティア「ぶちゅっ、ちゅく……ンンっ、いやあ……ンちゅっ、るちゅ、じゅるう、ンじゅる……ああっ、ミ、ミルクが、くひのなかにたくしゃん……♥ ンあうっ、じ、自分れ、自分の、母乳を飲ましゃれるなんれっ、くうっ……ン、べろ、べろ……ンンっ！」

最初は戸惑いながら舐めているだけだったのが、次第に興奮してきたのか強めに吸るようになった。

精炎「美味そうだな。もっと飲んで味わえよ！」

乳房をギューギューと手でつかんで搾り、母乳をセレスの口内に流し込んでやる。

セレスティア「ひやめろお……ン、ンぐぶっ、じゅるるるっ、ンぶうっ、ああっ、濃いミルクの味い……おぶっ、ちゅむ、ちゅる、ちゅべろお……」



(うう……こんなことさせられるなんて思わなかった……ひどい屈辱だけど……ううっ、あああああっ、こ、興奮してしまうっ♥♥)



セレスティア「あはああっ！ あうっ！ ひやあああっ！ 奥によほうチンポがぶつかってりゅ！ ああっ！ あうっ♥ ひやああんっ!!」

セレスの身体が俺の上で力強く上下する。その膣壁で肉棒全体が擦り上げられている感覚だ。セレスが深く腰を落としてくるたびに子宮口に先端がぶち当たり、頭の中が真っ白に染まる。

セレスティア「あぐふううっ！ ああっ！ ほう、あっ！ ああうっ、ンっ♥ し、子宮にめり込むほどのとこまれ届いてりゅ……はああんっ♥♥」

精炎「子宮にチンポ当たるの気持ちいいか?」

セレスティア「きもひいいれしゅっ♥ もっろ！ あっ、あっあっ、あっ♥ もっろもっろ激しくしてえっ！ おひいいいっ♥♥」

「もっとお！ もっと、確実に孕ましてくらしやああいっ♥♥ 精子たくしゃんもりやって妊娠したいれしゅうううっ♥ あひやああああっ♥♥」



「ふ、ふうふう……ち、違うっ、ちぎやうふうっ！ はう、あっ！ くっ、わ、私への侮辱は、万死に値しゆるっ！ あああん♡♡」



爆乳を絞り上げるように巻き付いている触手。ギュウギュウと締め付けているので、少し母乳が滲んでいる。

精炎「おっぱいからミルクが滴ってるぞ」

セレスティア「くっ……い、言うなっ！ お、女の胸を雑に扱っておっへ……卑劣なっ！ ごぐっ、むごっ、ごぎゅっ、えぶっ……じゅぶぼぼっ！」

嫌がってもおっぱいを隠すことはできない。触手に乳房や乳首をいように弄ばれて喘ぐだけである。マンコやアナルに伸びた触手は細めだが、その分、繊細な動きをしている。彼女にとっては、指先で触れられているような感触のはずだ。

セレスティア「ぐぶっ、むおっ、ほぼぼっ……ろ、ろんら拷問をひやれようと……わらひはれたいに屈しないからら！ ぐえっ、おぶっ、ほぼぼっ……」

身体中を責められながらも、まだ強気なことを言い放つセレス。ただのド変態のくせにプライドは山よりも高い。だが、そこがいい。





「しよんなあ……ああっ、わらひ、お尻の穴、
犯されてりゆのにつ、自分で思いっきり動
いびやっつりゆっ♡♡♡♡♡はあっ♡♡♡♡♡」

セレスティア「あ、ああうっ！ おひりのあに
や、拵げられひやっつりゆ……んくっ、あく、あ
ああっ！ 頭、真っ白になっひやううっ♡ く
ひいっ！ ああんっ♡♡」

膣よりもはるかにすごい締め付けに、俺もつい
力んでしまう。

セレスティア「んふうっ！ ンきゃあああっ！
う、動かしゆなっ、あああっ♡ おかひくなり
ゆっ♡ ンっ！ きやふううっ!!」

精炎「どうだ？ みんなが見ている前で尻の
穴に突っ込まれる気分は？」

セレスティア「んひいっ♡ 言うにやあっ♡
は、恥じゆかひいっ♡ 恥じゆかひいけろ、き
もひいっ♡ ンはああっ♡ ひはあっ♡
あっあっあっあっ♡♡ ぬはああっ♡ お、お
しりあちゆいっ♡ ひっ♡ いっ♡ くはあ
あ、ンひやっ♡ らめらあっ、チンポぬいれえ
っ♡」

掠れた声で悲鳴をあげつつも、セレスは腰をく
ねらせて尻を上手に動かし、奥まで肉棒を咥
え込もうとしている。

精炎「ふふっ、お仕置きアナルで悦んじやっ
てるのか？ やっぱりセレスはド変態パラディン
だなんっ!」





セレスティア「ひゃあぁんっ、熱いの来てりゅっ!? うあぁっ、あっ、た、たくしゃん、中出しされてりゅうっ♡ ひゃひいいっ♡♡」

セレスは体内に注ぎ込まれた精液を嬉しそうに吸い上げる。サキュバスなので本能には逆らえない……って、たぶん逆らう気もないと思う。

セレスティア「あひいっ、イク♡ イくらっ♡ あちゅあちゅのドロドロザーメン、にやからしされてイっひやうううっ♡♡」

イキながら母乳を撒き散らし、呂律の回らなくなった口調で喘ぎまくるセレス。だらしなく緩んだ表情で熱い吐息をこぼす。

セレスティア「ふうっ……ンンんっ……」

「ひはああぁっ、らめらめえっ、頭おかひくなりゅうっ、あひっ、ああぁあっ! チンポ気持ちよすぎれえ、パラディン失格になりゅうっ♡♡」

喉を鳴らして精液を飲み干しながら、セレスはブルブルと身体を痙攣させた。イッている。飲みながらイッている。

セレスティア「くふう、イクうらん♡ ンっ♡ あっ♡ ぐうう♡ ンくううううっ♡♡ ンうっ、イクうっ♡ イクっ♡ ンあっ、あっあっ♡♡ ごきゅっごきゅっ♡ ンン♡ くぶふう〜〜っ♡♡」
ガクガクと震えながら絶頂に達するセレスだったが、イキながらもまだ精液を飲むことをやめない。

精炎「イキながらしゃぶり続けるとはっ……なんてヤラレ根性! 一流のDMパラディンだな!!」

セレスティア「ごきゅっごきゅっ♡ ぶあ……はへへえ♡ 飲みひれなひい……♡ ンぶちゅ、ぢゆるぢゆる……ちゅっ♡ ちゅううう……♡」

絶頂に蕩けただらしな顔で、セレスはなおもチンポを吸った。

「ンひやううっ♡ 乳首、しゃいこうに気持ちいい♡ ンむう、じゅぷぷ、じゅぼっ♡ ミルクれると、頭がふわふわしてきひやうらん♡♡」





「はあっ、はあっ、
ご主人しゃまのじゃーめん、
ろっれもきもひいれしゆう……
はあ……はあ……♡」

セレスティア「やっ♡ やらやらあっ♡ 貴様のチンポじゃなき
や、やなおおっ♡ あっはあぁんっ♡ 一生このチンポに屈服
すりゆうっ♡♡」

精炎「……ッ?!」

どでかい不意打ち喰らいましたよコレ!? いや、あの、このひと、
上級職のパラディンですよな? かーなーー強い女騎士がそん
なこと言っちゃっていいの!? ……っっていうか、ダメ、俺、一気に射
精欲がこみ上げてきちゃいましたよ!

セレスティア「きひやまのチンポがらいしゅきらっ♡ ずっとハメ
ていたい♡ はひいひいっ! あはあぁっ♡」

精炎「うっ!」

セレスティア「んはあぁっ、きへきへっ、きへええ♡ きしゃまの性
奴隷セレスティアのマンコにどぶどぶ射精しれえええっ♡♡♡」





「はうんっ♡ふ、深いとっ、潜り込んできこるっ……んっ、んあっ！……んふっ……はあ♡♡」



セレスが全身を跳ねさせている。絶頂に打ち震えて波打つ肢体がたまらなく色っぽい。

セレスティア「ふあああああっ♡♡あちゅいのたくしゃん入ってりゅうううっ♡♡♡ 中出し気持ちよしゆぎてイっひやうっ♡ あっ、ああっ！ イクうっ♡ イクううっ♡♡」

掠れた声で喘ぎながら、セレスは何度も気持ちよさそうに絶頂を迎えた。サキュバスモードでは感度が倍増している。しかもエロ魔導書の効果もある。射精した肉棒に追い打ちをかけるようにきつく締め付けてくるセレスのマンコ。最強っ、このマンコ最強すぎいいっ！

精炎（おおおっ……こ、これがっ、サキュバスとしてのセレスの本気……ッッ!!）

サキュバスの激しい膣ヒダの蠢きに、射精がまったく止まらない。ひたすら、延々と搾り取られてしまう。

セレスティア「ふひゃああ……ま、まらら！ まら余韻に浸るのは早いっ……うふ♡ うふふ♡」



「あああつ!? やあんっ、お母様っ!
チンポを独り占めなんてずるいですう!
騎士の風上にも置けぬその行動っ!」

自分でも呆れるほど射精したのに、まだまだ止まらない。母娘の秘部に挟まれて、盛大に大放射する。

ベルナデット「んあああああつ♡ せ、精液っ、こんなにらひてもりやえりゆなんて最高おおっ♡ ンあああつ♡ ンううっ♡ ひああああつ♡♡」

セレスティア「あちゅいのがかりやだにかかって、わたひたちドロドロにされひやうてりゆううっ♡ ンふうっ♡ うああっ♡ ああんっ♡♡」

ピチャピチャと大量の白濁液を身体中に浴びながら、精気や魔力をぐんぐん吸収していくベルナデットさんとセレス。

ベルナデット「はあつ、はあつ、はあつ♡ もっとお……もっと欲しい……♡ こ、こりえくりやいではまら、満足れきにやいぞ……ふうふうっ♡ ああん……♡」

セレスティア「あはあああつ……♡ たくしゃん浴びせられて幸せえ……♡ れも、もっとお……♡ 次はまたマンコにいい……あはあ……♡♡」



Rosalina Raphaelos



エグゾテニス部に所属する高飛車Rcupお嬢様

ロザリナ・ラファエロス

Rosalina Raphaelos [CV:あかしゆき]

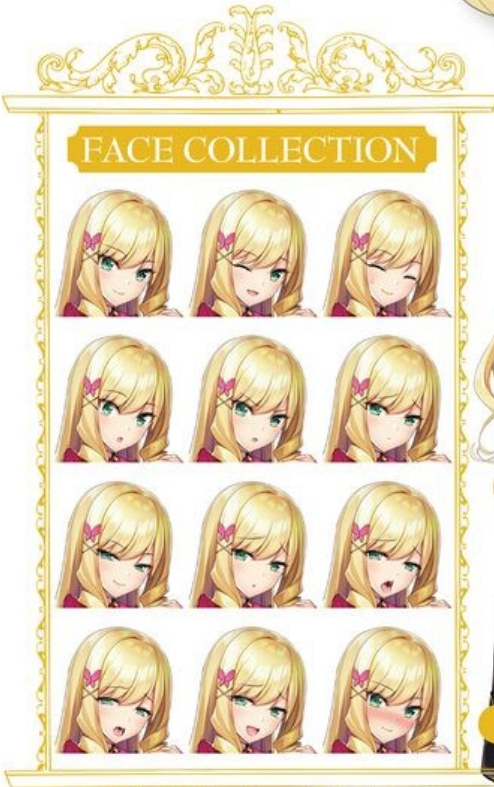
身長:164cm

スリーサイズ:B120 / W58 / H88

R-cup

「今っついで、泣きながら頭を下げて、靴を舐めながらお願いするのでしたら、試合終了まで守ってあげてもよろしくですよ♪」

名門貴族出身のプライドが高いお嬢さま。人間を見下していたが、精炎の匂いを嗅いだ途端に発情する変態スキルを習得してしまい、新たな性癖に目覚めてしまう。以来、彼を虜にしようと自慢の美爆乳で誘惑してくるように。実は幼い頃、花の匂いに昂って初自慰をした経験がある。



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



「きゃああっ！ 何か太ももの間に……
じゅっ、じゅっは！ あの時握らされたお、おチ……うっ……」



ロザリナ「な、なんですか。いい匂いがどんどん濃くなって……んく。はあはあ♥ 違いますのにな、気持ちよくなかありませんのにな」

チンポの先端に熱さとスメリが擦れると、ロザリナ先輩は肩を丸めて強張った。

ロザリナ「く……うう、んあっ♥ ひやうっ♥ そそそ、そんなトコロに汚らしいラケットなど擦り着けないでくださいませっ！」

精炎「汚らわしいなんてヒドいなあ。毎日の手入れは欠かしてませんかあ？」

爆乳を揉みしだきつつ、マンコにチンポがもっと擦れる様に意識して腰を振る。ムチムチの尻肉や引き締まった内ももにチンポが擦れると、あまりの心地よさにこちらが震えてしまう。

ロザリナ「はあはあ、やあ……ん、ん♥ ふう、ふう、うっ、ううっ、クッ！ ンはあっ、あああ……♥」

汁気たっぷりの熱蒸した蜜肉に龟头が擦れて、いやらしい水音が鳴る。

精炎「どんどん濡れて滑りがよくなってますよ、ロザリナ先輩」

ロザリナ「ッっ♥ 気のせいですがっ！ これっぽちも気持ちよくなかありませんっ！ このラケットが濡らしているのではなくてっ！」





母乳と潮を噴かせながら、ピクンっピクンっ全身を引きつらせる。歯を食いしばって、意識がとんでしまうのを耐えているみたいだ。普段は見ることのできない表情に魅了される。

ロザリナ「ちよ、ちよっろまひなしゃいい……ひいっ♡ うううう♡ うっ♡ はあはあっ♡ あっ♡ あおっ♡ ううんっ♡」

考えるよりも先に、ロザリナ先輩のイキ続けているマンコをチンポで掻き回す。膣圧測定魔法の表示はマックスを振り切っている。きっと、ここまで必死になってやっと味わえる、人間のまじやたどり着けない領域。

ロザリナ「りやめええ、イクのとまりやりやひいい♡ はひいっ♡ ああああっ、はああんっ♡」

チンポから精液を一滴残らず搾り出す為に、極限まで締め付けられるサクバスマンコ。限界などとうに超えているチンポの形を変えんばかりに、うねり狂っている。



「んひいっ♡ ふうふう……
おマンコの奥う♡
精液で膨らんだ子宮が
おチンポれ塞がれ
ちゃっれましゅわあ……
あああ……♡」





「まだ終わりじゃありませんもの♡
むしろこれからですわ♡ はあはあ、
ふああ♡ さあ、射精おチンポ、
搾らせて貰いますわよ♡」



ロザリナ「射精てますわああ♡ はあんっ、おチンポがいっぱい暴れながら、
ピュルピュルといっぱい射精してええ♡ ああん、あちゅいい♡」
言われた通りに深く突きさしたまま、マンコの中に熱波を放出する。タイミングよく収縮する膣に搾られて、出し始めたばかりだというのに尿道に新たな熱波が押し寄せては出て行った。

ロザリナ「はあはあ……んん……はあっ♡ ううん、アナタの精液がおマンコの中にどんどん溜まっていますのお……うふうっ♡♡」
ものの数秒でマンコからあふれ出した精液が水面に白濁の糸を垂らしてたゆたう。サキュバスのマンコに搾られる快感にハマっているのは俺の方かも。——なんて、天井を仰いで呻きながら思ってしまった。

ロザリナ「あふふっ♡ アナタの濃い精気を直に吸収して、おマンコが生き活きとしましたわあ♡ はああ……んふっ♡」





ロザリナ「恥ずかしい声が止まらないんですのお……あっ、あっはあん♡ ンッ♡ 見ないで、聞かないで……あっ、あっ♡」
股を閉じる仕草を妨害しつつ、乳首がよく擦れるように弓を動かす。ロザリナ先輩の抵抗するような仕草が、我慢するような震えに変わっていく。

ロザリナ「乳首が擦れすぎてビリビリしてきましたわあ……はあっ♡ あああ……ンッ！ はあはあっ♡ あんッ♡ うううッ♡」
膨らんだ乳首がツンッと元気よく頭を振って、母乳をまき散らす。チラチラと、ロザリナ先輩もみんなを意識している。みるみると汗や愛液も増えていた。

精炎「もしかして見られて興奮してます？ いつもより母乳も愛液もたくさん出ますよ！」

ロザリナ「あなたがいつもよりしつこくイジるからですわっ！ あっ、くあっ、はあはあ……あっはあ、あんッ、ンッ♡」
みんなに見せるのを意識しながら、爆乳を弓で転がし、腰もできるだけ動かす。ロザリナ先輩の声の他に、結合部からはぐちゅりと水音が鳴っている。

ロザリナ（また恥ずかしい姿をたくさんの人に見られていますのに、おっぱいやおまんこをイジられると、声が我慢できませんのっ♡）

「お粗末な弓遣いですわねっ！
ちっとも気持ちよくありませんわよっ♡ はあはあ♡」



（私ってば、おチンポ舐めながら涎を溢れさせるなんて……
はしたないっ♥でもでも、おチンポ美味しくて堪りませんわあ♥）

一気にチンポにしゃぶりついて、口内で亀頭を舐めまわす。熱い口内と息遣い。よく動く舌と頬。ふっくら肉厚な唇の締め付け。いろんな感触が一気にチンポに襲い掛かって、呼吸が止まる。

ロザリナ「ンッふうう……♥ ふう、ふう♥ んぶっ、ちゅうう……ちゅくくっ、れりゅうん……くぶっ、くぶっ♥ ちゅううっ♥」

ランチの時はスープを飲む時に音を立てた俺のことを笑っていたのに。今じゃなりふり構わず、音を立ててチンポをしゃぶっている。

精炎（やっべ、ちょっと……射精る……ッ）

ロザリナ（おチンポがピクピクと口の中で暴れてますわあ♥ しかもとっても濃い匂いが口から鼻に上がってッ、くううッ♥）

気持ちよすぎて少し射精してしまったが、気にしていないようだ。むしろ味が濃くなったからか、もっと夢中になってチンポをしゃぶっている。

ロザリナ「じゅぞお……ぶちゅっ♥ ちゅくちゅくっ、んちゅるる……ちゅぼっ、ちゅぼっ……んれろお、ちゅっ、くぶくぶっ♥」

太いストローから飲むゼリーを吸るかのような吸引。思わず腰が浮いてしまう。





「今日はアブない日れすのお♡ だっ、だからあ♡ ご主人様のおチンポ欲しがりな私のドスケベおマンコお、孕ませれえッ♡」



ロザリナ「はひいっ♡ あおっ♡ おおうっ♡ 射精寸前のおっきおチンポ♡ おマンコを突き上げれえっ、子宮がちゅぶれひやいましゅのおお♡」

これは……子宮口が柔らかくなっているのか？ 亀頭で感じていた膣奥の感触が変化し、肉穴の中にさらに窮屈な肉穴ができたような気がしてしまう。プリプリとした力強い締め付けに、亀頭が責められているみたいだ。

ロザリナ「ひやうう、おチンぽれ子宮ズンズンされれイグうう♡ ひあああ、あああッ♡ 子宮れいきゅううう……ンン♡」

子宮とチンポをディープキスさせながら、力いっぱい股間をぶつけていると、脚や腰を跳ねさせながら踏ん張って、チンポを締めるロザリナ。

ロザリナ「ふうっ、ふうっ♡ ふああ……あっ♡ ああん、ンッ♡ ふああ……ああ……ああん、ああ、あああッ♡ はううう♡」

ロザリナの噴き出した愛液でこちらの股間までビシャビシャだ。こんなになるまで悦ぶなんて、最高のサキュバスメイドだぜ！

ロザリナ「ふおおお……おっ♡ ほお♡ はへ♡ はへえ♡ うらん……んひい♡ ご主人様専用おマンコ、らめになりゅうう♡」



「ああああ……欲しいですわ、アナタの1番濃い精液い♡匂いも量も、精気も魔力もすごくて、どうしても忘れられませんのお……♡」

ロザリナ「きやうう♡ うっ、ああ……おっぱいの奥にズンって響く、なんて力強い突き込み……ハアハア、あああ……♡」

思い切りチンポを谷間の奥へと勢いよく突き入れる。ロザリナ先輩の爆乳の圧力と相まって、ズルッと先端から竿まで激しく擦れた。

精炎「すげーだらしな顔になってるの、自分で気が付いてなかったんですか!」

ロザリナ「それは……ええっと……はああ、ああっ、ンンン……く♡ うっ♡ あん♡ ううっ♡ あっ♡」

筋力差と刺激の強さの差に、及び腰になってしまっているロザリナ先輩。優雅さと恥じらいをまだ捨てきれていないロザリナ先輩には、思い切った動きはできないだろう。何度でも腰を引いては素早く突き込み、腰振りを行う。

ロザリナ「あんッ、おっぱいに激しく腰振りしちゃダメですわ、おチンポがとっても擦れてますのお♡ 熱いい♡ はあっ、あああ♡ あんッ♡」

「が、理事長っ、ンンっ、フィリス先生っ……いや、やああん、見ないでくださいっ……!こんな、感じてるどころを見られたら恥ずかしいですわ♡ あああっ♡」



ロザリナ「もっとおっ♡ もっと犯してもよろしくてよ♡ 私のおマンコを狂っぴやうぐりやい突きまくって、犯し続けてくらしやませええっ♡♡」

たっぷり詰まった蜜液をグチャグチャと掻き混ぜるようにペニスを突き込み、高速で出し入れする。

アルヴィネラ「んむむうっ、クリトリスっ、皮むいてっ! もっと摘まんてっ! グリグリっしてえええっ♡♡ 感じしゅぎちやうぐりやいがいいのおおっ♡♡」

理事長の、可哀想なぐらい張りつめて膨らみきったクリトリスの包皮をむいて、激しく指の先で引っ掻いていく。

フィリス「おほおんっ♡ 指3本も詰め込まりえて、おマンコの中ズボズボされてりゅっ! ひい♡ ひいっ♡ もっとお♡ 掻き混ぜてっ♡ おおっ、おん♡」

もっと高速の抽挿をせがむように、フィリス先生はいやらしく腰をくねらせる。



イザベルさんとロザリナ先輩は、尻を持ち上げるマングリ返しポーズのおかげで、自分達から噴出される汁を浴びながら悶えている。なんて情けなくて、エロい姿だろうか……♪ 見ているだけでチャームされて、その興奮がそのままチンポに流れ込み、精液になってイザベルさんとロザリナ先輩のマンコに流れ込んでいく。

精炎「イザベルさんもロザリナ先輩もすごいマンコだっ、射精がいつまでも止まらないっ♡」

イザベル「おふっ♡ おマンコに収しやりまりきらない大量射精い、ひいっ♡ お腹の中で重い精液がグルグル動いれっ♡ きもひいれしゅのお♡」

マンコからはもう精液が溢れているが、構わず交互に抜き差しを繰り返して中出しを続ける。

ロザリナ「私にももっとお♡ んおおおっ♡ おチンポきましたわあッ♡ ああ、射精しれっ、射精しれえっ♡ んっはあ、ああンッ♡」

搾精モードになったイザベルさんとロザリナ先輩のマンコに、どんどん搾られていく。

「射精しゅごいい♡ 精液がいっぱいれっ、お腹が膨らんでいるみたいれすわあ♡ ンン、ママと一緒に受精させられましゅわあっ♡ はっひいいン♡」



Sophia von Managras



夜行性で甘えん坊のJcup下級生

ソフィア・フォン・マナグラス

Sophia von Managras [CV: ハツ橋きなこ]

身長: 140cm
スリーサイズ: B98 / W52 / H75

J-cup

あどけないが少しわがままな性格をした、ヴァンパイアとインキュバスの間に生まれたお嬢様。夜行性体質のため昼間の活動は魔力消費が激しく、精炎のキスによる魔力補充無しでは歩くのもやっと。だが、補充しすぎると発情してしまうことも。ユリドラシルにない生活慣習や娯楽の話が好き。

「おおっ♪ さすがは将来の我が眷属! 気が利くではないか。うむ。よきにはからえ♡」



制服 サキュバス 水着 裸(淫紋)
制服(ぬいぐるみ) サキュバス(ぬいぐるみ) 裸

「んあっ、あゝゝん♡
精液っ、口に直接っ♡」



精炎(可愛い後輩をザーメン便器みたいにするなんて……たまらない! 興奮がヤバすぎ!)

背徳感も手伝い、射精は自分でも信じられないくらい長く続いた。ソフィア「ゴクッ……! ゴギュッ、んっぐウツ、ゴクン♡ んひゅっ、うはあっ、ハアハアッ♡ す……しゅごい精気と……魔力なのりゃあ……♡」

吐精が終わると、ソフィアはまた喉を鳴らして汚液を飲み干す。自身の肉体を汚されたというのにまるで気にも留めず、飲酒でもしたかのように表情を恍惚とさせ、潤んだ瞳でこちらを見上げた。

精炎「くはっ、ハアハアッ! 大丈夫だったか……?」

ソフィア「はふう〜♡ 極上の魔力を、もらえたからの……♡ はうう、身体が熱くてえ……あう、わらわも気持ちいいのじゃあ……♡」



「はひゃあっ、あふうっ、ふうう……♡
子宮にい、子種のプレゼントお……っ、
ふにゃあ♡ とっへも
よかつひゃのじゃあ……♡」



ソフィア「ひゃわあーっ♡ 射乳いいのらァ♡ あひっ、ひゃひイ♡ 精液もらいながりゃっ、射乳絶頂しゅごひィィ♡」

ビクビクッと背筋を反らし、ソフィアはオルガスムスにはまり込む。幼げな顔を淫楽に歪め、べろりと舌を突き出し、よだれまでだらだらとこぼしたアクメ顔をさらしていた。

精炎「射乳絶頂してるソフィア見ると、ザーメン止まらないッ!」

ソフィア「ひひゃあ♡ あっ、ああーっ♡ オマンコの中あっ、精液ビュクビュクきへるうう♡ 奥に熱い浴びへ、イッへりゅのりゃああ♡ オマンコの奥うっ、きゅはああ♡ 子宮に精液ぶちゅけられりゅのっ、気持ちよくへたまらなひィィ♡」



吐精中にさらに上り詰めた肉幹はドクドクッと脈打ちながら大暴れし、大量の汚液を後輩の素肌に向かって放出していた。

ソフィア「んひゃははんッ♥ あちゅッ♥ ああんッ♥
あ♥ ああ♥ 精液たくさんっ、わらわに飛んでくりゅうッ♥」

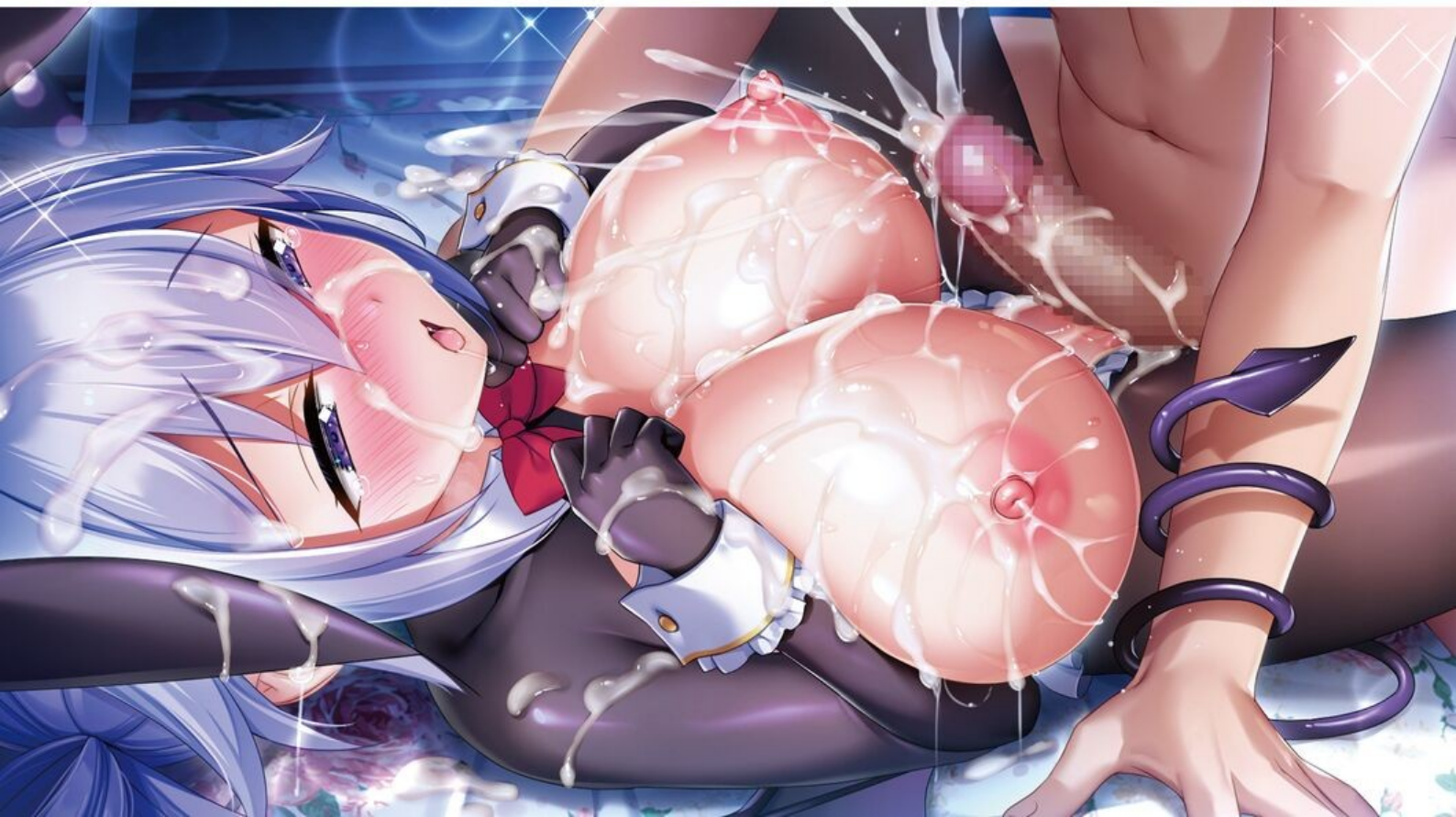
汚い汁で肉体を穢されているというのに、ソフィアは嬌声を上げ、小さな身体でビクビクと悶えている。熱い精を浴びるたびに快感まで得ているのか、膣口もヒクヒクとさせて奥から雄汁と蜜汁の混合液をトブトブと吐き出していた。

ソフィア「ひゃうう♥ オチンポがビュクビュクしへえっ、精液い、顔まれ飛んれくりゅ♥ にやううっ、熱いの気持ちいいのじゃあァァ♥」

肉竿の先から勢い良く噴出する生殖液が、後輩の乳や首筋、顔や髪まで降りかかる。誰もが嫌がるほど汚されたにもかかわらず、ソフィアはめくるめく愉悅に飲み込まれていた。



「ふう、ふう……。精気、吸い切れなかつひゃのが、
残念じゃあ……。♥ あふっ、次は……。全部、子宮で飲みたひィ……。♥」





「はあ……はあ……っ♡え、あああ……♡
 わらわあ、本当にママになっぴゃっぴゃっ♡
 「♡あひゃあ♡ああ……っ♡



ソフィア「あひゃあ♡ ああ……っ♡ お腹あ、重い……♡ んふふ、お主の子お……ハアハア、妊娠しひゃあ♡♡」

これまでの交接と連続絶頂で思考能力も落ちているソフィアは、俺の子供を身ごもったと勘違いしている様子だ。蕩け顔のまま嬉しそうな笑みを漏らし、穏やかでうっとりとした声で悦びを口にした。

精炎「エロ魔導書ってここまでできるのか……っ。素敵すぎる！」

ソフィア「妊娠ゆるのお、ステキじゃな♡ はふ、あう♡ ああ♡ お腹に赤ちゃんがいると思うとっ、興奮がしゅごくなっへきひゃあ♡」

強烈な昂ぶりによって魔力まで高まり、膨らんでいる腹に淫紋が現れる。ついに淫魔の本性が完全に目覚めたソフィアは、乳と腹を揺らしながら下腹部をくねらせ始めた。

精炎「うわっ!? 熱いマンコがうねりまくってる! チンポしごかれまくってっ、ザーメン搾りのターンだっ！」

ソフィア「孕んれもおっ、ザーメンほしひ♡ はへ♡ へああ♡ もっぴょ妊娠マンコレ精液飲みひゃい♡ 飲み干したひいひい♡」

ソフィア「らめらめえええッ！ 潮噴き絶頂、止まりやぬうっ♡ 人前れっ、ダメなのに……中イキれお潮噴くのふひアアアん♡」

精炎「ソフィアの潮噴き絶頂、色んな人に見られてるぞ！」

ソフィア「いやらあああッ♡ 見られひゃっ、らめなのにイッ♡ イクの止まらなひのりゃッ♡ イクイクううッ♡」

嬌態を人に見られる羞恥心に余計に興奮を覚え、後輩は小さな身体をブルブルルッといやらしく震わせる。下半身もピクンピクンッと卑猥に踊らせ、膣肉も雄汁を搾るようにうねらせた。

ソフィア「ひゃあああん♡ まらオチンポからっ、ピュルピュル精液れてりゅう♡ オマンコの奥う、熱くへ……んへえええーッ♡」

繰り返して絶頂するソフィアは涙やよだれまで垂れ流し、べろりと舌まで突き出したみっともないアへ顔をさらす。ヴァンパイアの名門の家柄でプライドも高いはずなのに、人前で果て続ける後輩の姿は、この上なく淫靡だった。

精炎「ソフィアがエロすぎてっ、俺まで興奮する！ くうっ、このまま……ッ！」

ソフィア「うああッ？ オマンコの中れっ、オチンポ大きくっ……っ♡ あああっ、オマンコが、ぐばっへえ……押し広げられりゅうっ♡」



「知らないのらアッ♡ 腰が勝手に動きよりゅう♡
オチンポが気持ひよしゆぎへっ、くねりゆの止まらなひいッ♡」





まるで俺に見せつけるかのように、後輩ははしたなく自分の乳を吸った。
ソフィア「んじゅるるっ♡ ちゅちゅうっ♡ ふはっ、これが……わらわのミルクの味い……♡ ゴクゴク……ンッ、ふうふう♡」
精炎「自分でおっぱい吸うって、オナニーと同じじゃなか! エロいぞソフィア!」
ソフィア「あひゃん♡ おっ、オナニー……っ? んふあっ、甘ったるくへえ……っ、ふあああ〜っ、ミルク臭が鼻に抜けりゅう♡ ハア、ハア♡」
己の母乳で酔ったように表情を蕩けさせ、ソフィアは肩をブルブルと震わせている。
ソフィア「お主はあ……んは、こんなにいやらしいものを……味わっへおっひゃのかあ……♡ んん、たまらなくなりゅう♡ ちゅろろっ、じゅろ♡」

**「お主にミルク飲まれひやらっ、わらわのエナジーが
吸われりゅからの♡ ふふふっ♡ 自分れのみゅ♡ あむう〜♡」**



ソフィア「あひゃああ〜♡ ひゃあああーっ♡ お潮もらめッ! 止められにゅ♡ 潮噴き絶頂すりゅううっ♡」
後輩は下半身を痙攣させながら、膣口の上部にある小さな肉穴から透明な液体をビュビュッと噴出させていた。
精炎「ミルク噴きながら潮まで噴いてイッてるソフィア、エロすぎだ! ザーメン止まらなくなるッ!」
ソフィア「止めなくへよひいい♡ オマンコに全部う、オチンボ汁搾り出しへえッ♡ んきゃああンッ♡」
極限に至っている小柄な淫魔は、下半身をカクカクといやらしく振り回す。膣肉もうねうねと波打ち、肉襷を絡み付けてズリズリと削るようにしごき立ててきた。
精炎「ザーメン搾り出すよりっ、搾り取られてるッ! ぐううッ! サキユバスマンコ、いつもよりヤバいッ! 奥さんマンコすごいぞッ!」

**「イひひひッ♡ 子宮のお口いっ、
グリグリしひやら♡ ンひゃあ♡
それっ、気持ちよくなり
すぎるのじゃあアっ♡」**





「お母ひゃまつ、ジュロルッ、れりよん、わらわが先なのりゃ♥
 らめらめえ♥ お母しやまを孕まへひゃ♥ んん♥ りゆるっ、レロレロっ♥
 じゅちゅう♥ ジュルッ♥ ちゆるウ♥
 精炎「そっ、ソフィア……ッ！ そんなことたら余計にイキそうだって！」
 興奮が極まっている後輩は言葉とは裏腹に、放精を促すように俺の乳首を舐め上げ、いやらしい口付けを繰り返した。
 ソフィア「わらわが先なのりゃ♥ んちゅ、れりよん♥ わらわが孕みゆう♥ ジュロロッ、ふひゃあ♥ イっきゅ♥ ンンっ、イクのりゃあ♥」
 ラナエステ「ザーメンきて♥ おほおお♥ マンコの奥っ、子宮にきてえ♥ そなたの子がほしっ♥ おおおん♥ イキながりや孕むウッ♥」

ラナエステ「本気りゃあ♥ 孕ませてえ♥ そなたの子供おっ、おんん♥ おお♥ 身ごもらせひえほしいのおおッ♥」
 精炎「うおあ!? ラナさんがマジだ! マンコがうねりまくってチンポ搾ってるッ!」
 収縮を繰り返す子宮まで龟头にムチュウッと吸い付き、子種を飲み込もうとしていた。
 ソフィア「らめらめえ♥ お母しやまを孕まへひゃ♥ んん♥ りゆるっ、レロレロっ♥
 じゅちゅう♥ ジュルッ♥ ちゆるウ♥」
 精炎「そっ、ソフィア……ッ! そんなことたら余計にイキそうだって!」
 興奮が極まっている後輩は言葉とは裏腹に、放精を促すように俺の乳首を舐め上げ、いやらしい口付けを繰り返した。
 ソフィア「わらわが先なのりゃ♥ んちゅ、れりよん♥ わらわが孕みゆう♥ ジュロロッ、ふひゃあ♥ イっきゅ♥ ンンっ、イクのりゃあ♥」
 ラナエステ「ザーメンきて♥ おほおお♥ マンコの奥っ、子宮にきてえ♥ そなたの子がほしっ♥ おおおん♥ イキながりや孕むウッ♥」





1000年の眠りから目覚めた
Ucupバーサーカー

ファミ

F a m [CV: 金松由花]

身長: 175cm
スリーサイズ: B131 / W60 / H94

古のサキュバス文明時代に作られ、学園の片隅で眠っていた。起動させた精炎をマスターと認識し、彼のためなら身体を張る献身的精神を持つ。性知識や性スキルが初期化されていて、学園の授業や精炎の実践教育でサキュバスとしての機能を取り戻そうとしている。ソフィとは気が合い、仲良し。

「キノコ……なんだから素敵な響きです。いつか、マスターのキ、キノコを……もらえるんですけどしょっかつ♡」



制服

サキュバス1

サキュバス2

水着

裸

裸(淫紋)



ファミ「気持ちよかったので平気です……マスターのおチンポももっと気持ちよくなります♡
れるん、ぬるる……ん、んん、あふ♡ ちゅっ、
ちゅく♡」

精炎「おお！ は、激しいな……♪」

ファミ「はあ……ふう、んれろ、ぬるる、ちゆる、
んちゅちゅう……ちゅじゅびちやあ♡ マスターの味が濃い……はあ♡ はあ♡」
おっぱいをタブンタブンと乱暴に揺さぶり、チンポの先端にチュウチュウと吸い付いてくる。そのまま舌先を鈴口にグリリリッとねじ込んでくると……俺は思わず感嘆のうめき声を上げてしまった。

ファミ「んあむ、むぐ、ちゅぬる、れろ、れろれろ……はあ、はあ……美味しい……舌が止まりません……♡♡」

精炎「ああ、ファミのおっぱいに搾られてるのがよくわかるよ……ちゅっ、くちゅちゅ！」

ファミ「ん、んん♡ ちゆる、じゆるじゆるうう……♡ おチンポから魔力が充填されていますう……ん、んん、れろれるる、ちゆるうう……♡」

「んっふっしゅっしゅ♡♡♡んべっ、
んちゅ、ちゆる……れろれろ……
ゴクン……んはあ♡
これがマスターの精液の味……
精液の匂いい♡♡」



「はああ……はああ♡ おまんこれえ、ましゅたあ
あの登録、かなりうれしゅう……♡ はあ、はあ、はあ……はうんっ♡」

ファミ「ああっ、感じる……マスターのおチンポの形……ん、んん♡ おチンポの全てがおまんこに刻み込まれてますうっ♡」ファミの声が、甘くしっとり森の木々の間を満たしていく。押し込み、引き抜きを繰り返していると、豊満なファミの全身が痙攣を繰り返していく。

ファミ「はああ……震えがとまりませんっ♡ くひゃあっ♡ あっ、ああんっ♡ ンッ、はああっ♡ ううんっ♡ んあっ♡ あっ♡ 思考能力が低下して……マスターのおチンポの感触で頭がいっぱいに♡ あっはあん♡」

精炎「はああッ！ おお、こっちも病みつきになりそうだ！」

ファミ「ああ、私はおチンポが好きになっているのですねっ♡ はああっ、ああ……んっはあっ♡ ああんっ♡」

精炎「そうだよファミ。俺もファミのまんこの事で頭がいっぱいだッ」

ファミ「ん、んん、私のおまんこはマスター専用です……ん、んん、お好きなようにお使いくださいっ♡」



「もっとましゅたあと
子作りしたいれす♡
ダメれしゅかあ♡」

グググッと腰が浮かせてファミの身体を股間から持ち上げながら、子宮と龟头を密着させて射精する。一発一発の勢いが自分でもわかるくらいに激しくて、飛び出していく精液に尿道が刺激されているみたいだ。途方もない解放感で、目の前に火花が散った。

ファミ「あああ……おまんこの中に心臓がもうひとつあるみられしゅう……はあっ♡ ああ……き、気持ちいい……んうっ♡」

チンポの脈動と同調しているファミは、カクカクと股間を跳ねさせながら、喘ぎ続ける。すごすぎる。射精と一緒にまんこがポンプして、どんどん精液を搾っていく。

ファミ「あっはあっ♡ まら出てりゅうッ♡ 子宮……孕む前にらめになっひやう……♡」

射精するたびに跳ね上がるチンポに反応し、艶っぽい喘ぎ声をもら出させていく。





ファミ「あっ、あっ♥ あったかくて張り付いてきて♥ 出っ張ったカリがグリグリっれえ……んっふうう♥ はあはあっ、ああ、ンン♥ くらっ♥ イクイク……ああああッ♥ あッ♥♥」

挿入した途端に絶頂したらしく、すぐに表情を蕩けさせた。膣粘膜とチンポが触れただけで、ファミの快感が跳ね上がっていくのが感じられる。

ファミ「はあはあ、恥ずかしい……全然我慢できなかつたれすう……んっ♥ ふうふう……あうっ♥」

精炎「でも、激しくウネって最高だ♪」

ファミ「ああ……はあはあ……んっはあ♥ マスターのおチンポも……とってもピクピクしれれ……しゅごいれす♥」



「んっはああ……あああ、生のおチンポきらああっ♥
 はびいんっ♥ っんん……うっ、っっちの方がしゅきれすう♥」

「ほおっ!? おおっ♡
 多しゅぎましゅう♡
 え……はひっ♡
 ま、ましゅたああれ♡
 おまんこから溢れれ♡
 ンアアッ♡」



ファミ「フウ……フウ……ンッ♡ あはあ……♡ もう気持ちよすぎれえ、頭まっしろれす……はあ……はあ♡
 脱力していくファミ。しかしまだ膣は小刻みに震えていて、チンポを悦ばせつづけている。

ファミ「んっ、ふう、ふう……んああ……ああ♡ おチンポがおまんこの中れプルプルしれれえ……感じちやいましゅう♡
 余韻すら大きな痺れになって、お互いの身体の中をいつまでも駆け回っていた。

ファミ「おまんこがましゅたあのおチンポと同じ熱さになって蕩けてくっついたみたい♡ 一体感がしゅごいれすう……♡」

ヌメリと痺れで区切りがひどくあいまいで。ファミの言う通り、性器が蕩けて一つになっている錯覚が起きていた。

精炎「搾精しすぎじゃないか？ ふふ……ふう……うう……♪」

ファミ「ましゅたあのおチンポがスゴいんれすう……♡ いつまでも、おまんこがイキ続けれえ、止まりませえん……♡」

ファミの下半身はお互いの淫液が混ざって泡立った汁で、べったりと濡れて。プールの水と消毒魔法の匂いなんて気にならないくらい、性臭もすごい事になっていた。





「ひゃああああ……れてりゅう……♡
おっほっ♡ ましゅたあの精液い、
子宮の中れうねってりゅう……あふっ♡」

激しく規則正しく、そして力強く尻を振ってチンポをマンコで抜くファム。

精炎「んぶっ……ウツ、ウウツッ!!」

ファム「あああ、またおチンポ膨らんでりゅう♡ また射精してくれまじゅかっ♡
ドビュドビュつれいっばい射精しちゃいまじゅかあ♡ ああん♡」

収縮した膣内が、チンポを豪快に締め付けて抜き上げてくる。また射精欲が沸騰し、尿道の中に今にも勢いよく流れ込んでくるようだった。

ファム「ましゅたあのおチンポ暴れてりゅう♡ ふおっ……んおおっ♡ 子宮がっ、ましゅたあの為のお部屋ちゅぶれりゅう♡」



再びの射精と同時に、突然ファムがポテ腹になった。マンコも熱くなり、膣肉が力強くチンポに食い込んで搾り上げる。

ファム「ふうっ、ふうっ♡ んうん……♡ ふおっ♡ おおお……っ♡
くふっ、う、あ、ああ……♡」

容赦なく精液を搾り取られていく。快感による震えが止まらない。恥丘も爆乳も膨らんだお腹も、充血してさらに赤色を濃くして。むわっと感じる程の濃いフェロモンを放つファム。多分、さらに強力な催淫効果があるに違いない。

ファム「ましゅたあが何かしたんれしゅかあ……ンツ、ふうふう……うぐっ♡」

精炎「お前を孕ませるカラダにした時の副作用だな……疑似的な妊娠だろう」

ファム「本当に壊れちゃっらのかと思いましあ……はあはあ……♡ ああ、でもこの感じが妊娠……あふっ♡」

「ちょっぴり苦しいけれど、子宮もお腹も幸せでいっぱい膨らんれ……
んふう♡ 妊娠、気持ちいいれすう……♡」

「おっぱいに精液がねっとり張り付いて……はー……♡ あふう……♡ ましゅたあのエッチな匂いが沁み込んじゃつれましゅ♡」



ファミ「ましゅたあの精液、すごい量♡ 溢れちゃってましゅ……あっはあ……はひんっ♡」
乳圧に精液が搾り出され、谷間の中で強烈な噴出を体験させられる。柔らかく深い谷間の中に収まらないほど精液が飛び散り、ファミの顔や身体にも満遍なくかかってくる。

ファミ「ふー……♡ ふー……♡ ううん♡ ミルクもとまらないれしゅう……おっぱいマンコイっちゃってましゅうッ♡」
ビュルビュルと溢れているのは、精液だけじゃない。母乳も大量に噴射されている。

ファミ「んはあ……はあ……はあ……はああ♡ んん……んく……♡ あふう……♡」
まるでファミがおっぱいから射精しているみたいだ。なんて。ぼんやりとしていく頭で思ってしまった。谷間で挟み込んだままのチンポは、いつまでも窮屈感を跳ね除ける勢いで暴れ続けていた。

ファミ「あぶっ♡ 精液の勢が強すぎれ、口にまれっ♡ んああ♡ はあ～……♡ はあ～……♡ むぐむぐ……くちゅくちゅ♡ ごくっ♡」
あ～んと口を開けて、谷間から飛び出した精液を受けると。まるでテイスティングでもするように口内で遊ばせてから、ゴクリと飲み干した。





「あああん、だ、だから、いちいち『彼氏』って言わないでえ……ん、はあ……はああん♥ それから、早くおチンポ譲ってくださいっ♥」



ファミ「はあはあ♥ お母さんのおマンコが美味しそうにおチンポ食べてる……ずるいですっ♥」

精炎「ファミのおマンコも美味しそうに指をしゃぶってるぞ……♪」

ファミ「ああんっ、それはマスターがいっぱい動かすからですっ♥」

ファミが羨ましそうなのを隠しもせず、ルシアさんと俺をせかす。

ルシア「ほ～ら、ファミ？ そうむくれたりしないの！ 甘えん坊なんだからあ……ん、んん、ふう……はあ……♥」

ファミ「お母さんが来るってわかってたら……はあ、はあ……おチンポ、ふにゃふにゃになるまで、あらかじめ抜いておいたのに……ん、ふう……♥」

ファミはぶりぶり可愛らしく拗ねながら、膣内をほじくり回される快感に身悶えている。



ソフィア「ンっ……ふあっ、うあっ、ンうっ……あ、はあっ♥ みんな美味そうに飴をしゃぶっておるな……あっ♥ わらわの食べている飴はひとまわりサイズが大きいような気がするが……気のせいかな……？ ンっ、ううっ……はあっ、ンンンっ……♥」

俺の上で腰を使いながらソフィアが陶然としたような表情を見せる。

精炎「おまえ、身体が小さいからな。大きく感じるんだろ」

すべてのチンポ飴は俺サイズだが、ソフィアは膣が小さめなので窮屈なのは確かだ。もともと、片手でチンポ飴を挿入しているシャルのマンコもかなり狭いので、似たようなものである。

シャルティーナ「ン、ンンっ、あううんっ……せ、先輩のおチンポさん……あううっ……私の中で暴れてるような心地がしますう……♥ はあ……はあ……ンふう……♥」

シャルの秘裂に突き立てているチンポ飴が、体温で少しずつ溶けているのがわかる。小さくなってしまったら、新しいのと交換してやろう。

精炎「溶けてるのは飴じゃなくてシャルのおマンコだな」

「あっ、シャルさん、すごいですっ、腰をあんなふうに卑猥に……わ、私たちに見せつけているみたい……！ ま、負けてられません……！」
(ファム)

「はあ、あっ、あううん♥ あなたのせいで、また大きくなったんですのっ♥ お気に入りの服が着れなくなっていい迷惑ですわ♥」
(ロザリナ)



鷹美「はあ……はあ……♥ くっ！ さっきからお尻を舐めたりおっぱいを揉んだり……あまつさえセックスまで始めて！ ちゃんと測定しなさいよね！」

精炎「やりながらちゃんと測ってたぞ！」

エロ魔導書のおかげで、俺が測定することに関しては何もつっこまれない。全員生まれたままの姿をさらけ出し、なんやかんや言いつつも爆乳や尻をしっかりと測らせてくれた。

シャルティーナ「もしかして、測定するのは私達のおっぱいやおマンコの感触や感度……？ あうう、恥ずかしい……」

精炎「シャルちゃんは賢いなっ♪ その通り！」

メジャーで計る素振りをしながら、爆乳を縛ったりして。測定しているのはサイズだけでなく、感度や成長具合を重点的にいろんな手段で測っているのだ。

セレスティア「くううっ、女を裸に剥いて並べたと思ったら、気ままに身体を弄ぶなんてっ♥ しかも私は放置してっ！ ご褒美のつもりかっ♥」

精炎「放置しろとか言い出したのは、そっちなんだけど!？」

中にはセレスみたいに……というか、セレスはいつものように、ドMエンジンをフル稼働させているが、最低限の羞恥心が残っているまま、これからチンポで与えられる快感におマンコを疼かせている。全員、丹念に性畜してきたサキュバスちゃん達だからな！ 内心は期待してしまっているに違いない！

精炎「それじゃあ、そろそろ本格的に測るぞっ♪」

ファム「おチンポを挿れながらおっぱいをイじるのはダメですっ……マスター♥ はあ……気持ちよすぎて混乱してしまいます！」

「くちゅぷ、ぢゆるるぅ……ンンっ、はうっ……もうっ、デレデレしてえ……
よくもこれだけ相手にできるものだわっ……ふぁ……あひっ、あうんっ♡」(魔恋)



「ンンっ、もうっ! 魔恋ばかりずるいわっ……いつもいつもそうやって、
独り占めしてえ……! ンはあっ……あっ、はぁあっ……」(キヤルル)

魔恋「はふうっ♡ ンっ、も、もうっ、皆にいい顔してえ! ンっ、ひはあっ、ああ♡ わ、私だけ特別に……って、うう。な、何も言っていないわよっ♡」

キヤルル「ちょっとお、魔恋のほうがピストン1回多かったわよ? こういう状況なんだから、平等に……ひゃあん♡ ふぁあっ、あっ、硬くて、遅しいい〜♡♡」

魔美「はぁはあっ、ど、どうして委員長の私がこんな奉仕を……んあっ♡ し、しなきゃいけないのっ♡ はぁん、アンタのチンポが、擦ってくりゅ♡」

キュンキュン「くうっ……ああっ、もっと応援してやるぞ! ダークエルフに不可能なことなどないからなっ……ハイエルフなどと違って……あぁ……んくっふううっ♡♡」

エルゼ「くうっ、キュンキュン、言わせておけば……んはあっ♡ ダーリンはあたしのもの……んああっ♡ ひゃっ、ひゃああんっ♡ しゅごいっ、気持ちいいよお♡」

セレスティア「くっ、貴様などっ、戦えばっ、はひんっ、い、いっしゅんれえ……倒して……きゃはあんっ♡ あん、ああん♡ わ、私が倒されてしまろううっ♡♡」



「くっ……! 委員長にこんな格好させるなんて、明らかに校則違反よっ。で、でも、まあ、仕方ないから、最低限のおもてなしぐらいはしてあげるけどっ……!」(魔美)



「手取り足取りおチンポ取り、
ちゃんと教えて差し上げますから♡
まずはしっかりと準備しませんとね♡
んふっ、ンッ、ンッ♡」(ベルディア)

美しさすら感じる光景に、チンポの中にもみみると熱感が溜まる。その熱感を吐き出せと言わんばかりに、爆乳で締め付けて搾り上げてくる。ベルディア「ハアハアッ！ んんっ、はああ、また完全に勃起したおチンポのデコボコがおっぱいに擦られ……感じりゅう♡」

チンポを簡単に埋もれさせる爆乳達は、お互いに擦れ合いながら母乳を溢れ出させている。その爆乳達の蠢きにすら魅了されているような気がする。

ファビオラ「皆、興奮ししゅぎよお♡ 私の乳首まで擦れ合って、気持ちいいでしょお……♡ あっはあ、ああ……ンッ♡」

大きく肥大した乳首から枯れることなく母乳を出しながら、まるでセックスをしている時のように感じている。いつもに増して魅力的になっていく人妻サキュバス達。気持ちよくなっているのはチンポだけじゃない。

アンアン「私達、どんどん敏感になっていますのよお♡ あっ、ああっ♡ 硬いおチンチンと柔らかいおっぱいに搾られてましゅう♡」
お互いがお互いを感じさせ合って、どんどん昂っていく。



「あぁっ、んんっ♡ 水着コンテストなのに
おっぱいを吸うのっ!? 審査員が不正をするなんて
ダメよぉ♡」(麗美)

「んっ♡ うふふ、うっしておっぱいを吸わせよう
……まるで大きな赤ちゃんができたみたい♡
はぁ……♡」(ベルディア)



「私のうっごにきてくれたら、毎日おっぱい吸い放題よ♡
うふふ♡ アナタと気持ちよくなりたくて、いっつも
濡れちゃってるんだから……♡」(ファビオラ)

「残念です……アナタと2人っきりで深く愛し合えない
なんて♡ 心ゆくまで私の身体でおチンチンを満足させ
てあげますの♡」(アンアン)

「あん……本当に孕ませちゃうなんて、悪い子なんだから……はぁはぁ♡ あはあんっ♡」(麗美)

「見てください。貴方の赤ちゃんをちゃんと孕みましたよ♡ うふふ♡ ふうふう……♡ 母乳が溢れて止まりませせん♡」(ベルディア)

「うふふ♡ 不束なドスケベサキュバスですが、これからもよろしくね♡ パパさん……ちゅっ♡」(麗子)

「んっはぁ、ああん……♡ 膨らんだおっぱいを手とおチンチンで揉むなんて♡ こんな自我でできなくっちゃ……♡」(ライラ)

「望み通り孕ませていただきましたし、これからも旦那様にはずっとお世話になるので、このくらい当然ですわ……ちゅ♡」(イザベル)



「ちゅぽっ、ちゅぽっ♡ 味が濃くてえ、いつも精気で溢って、あはぁ♡ コレで孕ませてもらったなんて……嬉しいわぁ♡」(ファビオラ)

「もう孕んでいるのに、もっと孕ませてほしくなります……うふうん……♡ ンっ、ンっ♡ おマンコが万年発情期になってしまいます♡」(アンアン)

「誰の産んだ貴方にいいようにされて……はぁはぁ♡ 騎士じゃなくてメスにされて……あんっ、ふうふう♡」(ベルナデット)

「よかろう。妾をもっと感じさせるがよい♡ 妾の夫の最初のお勤めじゃ♡」(ラナエステ)

「運の尽き? うふふっ♡ いいえ、私はツイてるわぁ♡ アナタみたいなステキな男性と結婚できるんですもの♡」(ルシア)

「はああ……ああっ♥ んんっ♥ かかっ、可愛いとかっ♥ どうせ皆に言ってるくせに……
くうう……バカバカッ♥ ふあっ♥」(魔恋)
「淫乱ドスケベハイエルフめ! コイツは今、私の相手をしていただろ!
自分一人で搾ってえ……ろっ!!」(キュンキュン)
「ダーリン、私のおっぱいもっ♥ ダーリンに搾ってほしくて母乳が止まらないのお♥
野蛮尻でかダークエルフなんてほっといて早く早くっ♥」(エルゼ)



「私が最初じゃないなんて、何様ですのっ♥ いやらしい魔法かなにかでこんな身体にした責任、
ちゃんを取ってもらいますわよっ♥」(ロザリナ)
「貴様ッ! 人の身体で遊ぶだけじゃ飽き足らず、皆を侍らせてッ……なんて鬼畜の所業らっ♥
はやく私も弄ぶがいい♥ ハアハアッ♥」(セレスティア)



「ふあッ、ああッ♥ やっぱりアナタの仕業だったのね!
みんなのお風呂を占拠してエッチな行為をするなんて、校則違反なんだからあッ♥」(鷹美)
「見ろ見ろっ♪ わらわ、もおっとポインポインになっちゃったのじゃっ♪
身体が重くて飛びにくいけれど面白いのうっ♥」(ソフィア)



「んぷうっ♥ ちゆるる、ちゆくちゆく……んく、んく……♥
はああ、先輩と口移ししちゃった……あうう……♥」(シャルティーナ)
「ふあっ! マ、マスター? それは単に乳首を吸っているだけでは……はあっ、ああん♥
んん……とってもくすぐったいですっ♥」(ファム)
「はっ、はあ? アンタがいつ射精しようがどーでもいいけど!
みっともないくらいに勃起させて可哀想だから、私に射精してもいいわよっ♥」(キャレル)

「はっ、はあっ、あたり前でしょっ！ こんなに幸せにされちゃったんだからっ！
せ、責任取りなさいよねっっ♥」(魔恋)
「こんなに幸せにされちゃって……ホントに、許さないんだからっ♥♥♥」(キヤルル)
「あっ、あっ、ンふっ、人間のアンタが私を孕ませるなんて……
こ、校則違反なのよおっ♥ あああっ!」(鷹美)



「ああんっ……くっ、このチンポが私ダメにするんだっ♥
ああっ、もっと奥までえ!」(シャルティーナ)
「あ、あたりまえだろっ、
おまえのダーリンが私の身体で子孫を欲しがったんだから当然だ」(キュンキュン)
「ダーリン、はあはあ……もうっ、ダーリンいつもあんなにたっぷり中出ししちゃうから♥」
(エルゼ)



「あっ、ああんっ、そんなに突いてまだ私を孕ませるつもりかっ」(セレスティア)
「あなたに何度も中出しされたので……できて……当然ですわね♥♥」(ロザリナ)
「お主がドスケベだから……こんなに大きくなってしまったぞっ♥」(ソフィア)
「ああん、とうとうマスター……の赤ちゃん……できちゃいました♥♥」(ファム)



アルヴェネラ

Alvinella

[CV: 美空なつひ]

工 口偏差値の低下で廃校の危機にある学園の理事長で、精炎をユリドラシルに呼び寄せてしまった張本人。性欲が人一倍旺盛。



Exciting sub

ファイリス

Firis

[CV: 榎津まお]

高 レベルの妻淫系魔法や召喚スキルが扱える担任教師。温厚で穏やかだが、母性本能をくすぐる年下のかわいい男の子が好み。





ア ン ジ ェ リ カ

Angelica

[CV: 君島りさ]

聖女としてあがめられている清廉
 聖潔白なシスター。だがその実
 態は、悪戯の罰として受けた信仰に
 目覚めてしまった元悪魔。



N-cup

ヒロインたちに劣らない個性的なキャラクターが勢ぞろい!!

Characters



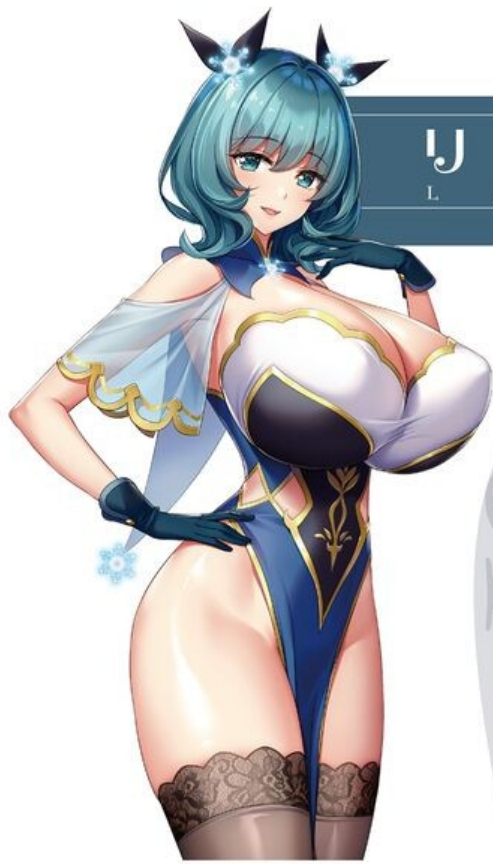
リ ジ ャ
 L i z z y

[CV: 赤月ゆむ]

明るくて陽気なミノタウロス族
 の見習い理容師。初めて店
 を訪れるお客さんも気遣える優し
 さを持つが、ドジっ娘でもある。



O-cup



リラ

L i r r a

[CV: 月森ねね]

近寄りたがる雰囲気を持つが、実は気さくで話しやすい学園ギルドの受付嬢。雪の魔女とも呼ばれている雪女族の出身。



FACE COLLECTION



FACE COLLECTION

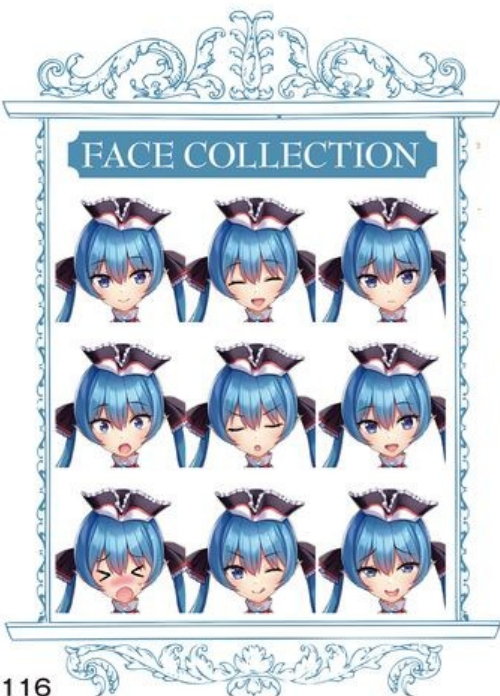


ベルダ

B e l l a d o n n a

[CV: 宇佐美日和]

鬼族の元戦士で、今は街の片隅で武器屋を営む人妻店主。マスタークラスの鑑定スキルを持ち、鍛冶師としても一流。



FACE COLLECTION



マロン

M a r r o n

[CV: 七瀬あかり]

海賊に憧れ、マーメイド喫茶で働いている人魚メイド。二足歩行に不慣れなのかよく転び、皿を割る枚数も人一倍多い。





ハピネス

H a p p i n e s s

[CV: 月詠梓]

目にするモノは何にでも興味を持つ無垢なハーピー。手の平サイズの愛くるしい雛だったが、エロ魔導書の力で亜人化した。



FACE COLLECTION



FACE COLLECTION



シトラ

C i t r a

[CV: 花月さや]

マジックアイテムの素材を収集している、魔法学校を卒業したばかりの駆け出し魔法使い。極度の方向音痴で、よく道に迷う。



FACE COLLECTION



ラグジュアル

L u x u a l

[CV: 雪村とあ]

中二病を患う、自信家で負けず嫌いな妖魔系女学園の1年生。精炎の服装の乱れを直したりと、女の子らしい一面がある。



「この学園の長であるこの私に……ぬはっつ、こ、このような下卑た格好をさせるなど……ああっつ、ご、言語道断っ、にゅふう」



アルヴィネラ (はぐうっ、下と一緒に唾液がっ……らめえ、興奮しちゃうっ♥♥)
唾液をたっぷりたえた舌を交差させあい、互いに気持ちを高めていく。気づけば理事長の腰づかいも激しくなっていて、根本まで肉棒を飲み込んで、催促するように尻を振っている。二人の腰が前後に揺れる動きが大きくなっていく。ヒクヒクとぞわめく膣ヒダは、もっと力強い抽挿を求めているみたいだ。
アルヴィネラ「あひっ、おっ、あっ、もっと♥、もっと♥ 腰を盛った犬みたいにぶち込んでえっ ンあああっ!!」
派手にヨダレと母乳を飛ばしながら理事長メイドが喘ぎまくる。もはや威厳などここにも見当たらない。ただひたすらに快楽を求めるメスと化している。



アルヴィネラ「くっ、ああっ、サキュバスなのに……おまんこ感じすぎて、溶けちゃうっのお、あああっ!!」
歓喜に目を潤ませて、理事長は大胆に腰を使う。動くたびに愛液が結合部から外に漏れ出し、グチュグチュと卑猥な音を奏でる。いつもの理事長の凛々しい面持ちは完全に崩れ、すっかりだらしく蕩けたメスの顔を晒している。
アルヴィネラ「はああっああっ、いやあっ、激しいいいっつ、あああっ!!」
激しく腰を振り乱し、硬く張り詰めた勃起で膣内を掻き回すと、どんどん理事長の声が艶かしくなっていく。俺の律動とタイミングを合わせて、大胆に自分から腰をぶつけてくる。根本まで肉棒が膣穴に埋まり、先端は子宮口にぶち当たっていた。
アルヴィネラ「ああんっ、ご主人様のだらしないチンポなど……あ、ぐっ、あああ、しゅごいいいっ!!」

「ああっ、お主のチンポが気に入っひゃったのお、もっとじゅぼじゅぼっ、おまんことかひてええっ♥♥」

「しっふふっ、射精我慢してるおチンチン、最高にカワイイんですもの。苦しめてあげるおチンチン……あははあっ」



フィリス「ふああっ……あうんっ、大きく膨らんだおチンチンに、おマンコの奥まで犯しやれてりゅうっ♡ ンっ、ああんっ♡」
俺の上でフィリス先生が淫らに踊る。巨大なおっぱいがブルブルと上下に揺れて、それを見ているだけでヤバイんですが！ さっき吸わせてもらった母乳がダラダラと乳首からあふれて流れ落ち、先生が動くたびに俺の上に降ってくる。

精炎「せ、先生っ……お願いだからイカせて……」

フィリス「あああっ、おチンチンで突かれまくって、ろんろん気持ちよくなっひやうっ♡ もっろ、もっろ、おマンコの中、ぐりぐりしてええん♡♡」

先生、まったく聞いてねえ——っ!!

フィリス「キミの立派なおチンチンで、先生の濡れまくりおマンコをめひやくひやにしれえ——っ♡ ンあっ、あふう、はっ、はあああっ♡♡」

フィリス先生は大胆に腰を振りながらペニスに肉穴で啜え込む。ヒダヒダが亀頭に絡みついてくるだけで、泣きそうほど気持ちいい。

「あははあ、素直なうさぎでちゅわえ。おまんこに、おチンチンをくっつけてあげまじゅわえ……はっ、しっふふっ……」



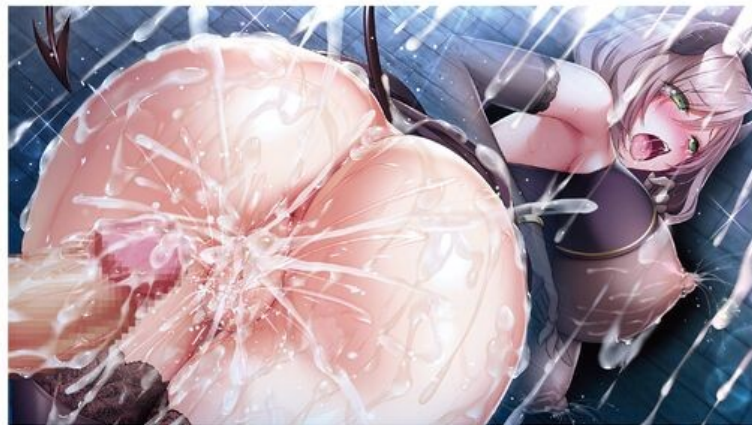
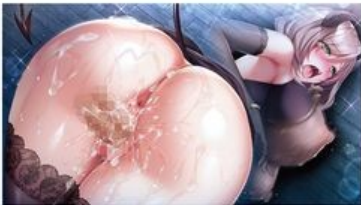
フィリス「あらあら、お口が止まっちゃいましたよ？ そんなに気持ちいいでちゅか？ うふふふ♡」

精炎「うう〜っ、ボクも負けない！」

そう言って舌でペロペロ、唇でチュプチュプを続けるが……いかん、気持ちよすぎて集中できない。フィリス先生、かなり本気モードで手コキに没頭してます！

フィリス「はふん……ショタきゅんなのに、こんなにガチガチに硬くしちゃって……ンン……けしからんでちゅわえ……はあ……はあ……。あああ……凛々しく勃起して……こんなにカワイイのに男らしくてたくましいでちゅよ……ンフ、フフっ、ンンっ、はあん……♡」

鼻息も荒く、手で包み込んだ肉棒をねっとり愛撫してくれるフィリス先生。しっこい。なんてしっこい濃厚な手コキなんだ。



「わんわんー。わんわんー。は、恥ずかしいからっ、ダメっ、見てもダメっ、触るのはもっとダメえええ——っ♡♡」

フィリス先生は、壁の向こうでひときわ大きな嬌声をあげる。

フィリス「こ、こらっ、や、やめなさいっ、あっ……ああああっ、ダメえっ、そこ……ンンンっ、敏感なとこ舌で舐めたりしちゃダメえっ!」

フィリス先生がまたテレパシー的なスキルで叱ってくる。

精炎「れも、もうグチョ濡れれふよ、じゅるるっ」

フィリス「きゃっ……や、やああん、く、口を、押し当てたまましゃべらないでっ……ンっ! あああっ!!」

左右の花びらを交互に吸いたてて、舐め上げる。小さな肉粒にキスをして、唇をくっつけたまま舌を這わせてやる。

フィリス「はひいっ、クリトリスしゃぶらないれええっ! ダメ、ダメっ……あふうっ……あうっ、ンっ……はあっ、はああっ……」



頭を上下させながら、小さな唇からたっぷり唾液を乗せたヌラつく舌で裏筋やカリ首や亀頭を舐めて。すばめた唇で見せつける様に亀頭にキスをして、わざと音をたてて吸い付く。

アンジェリカ「んはああ♥ おツユと汗でギトギトしててすごい味い♥ 魔力も精気もたっぷり溢れて……ああ♥ おいしいおチンポ♥」

精炎「アンジェリカさんがエロく舐めるから、めちゃくちゃ興奮しちゃってますっ」

まだまだ、これは序の口だと思えば、嬉しくてチンポが跳ねてしまう。

アンジェリカ「だめだめえ♥ これは懺悔なんだからあ、悦ぶんじゃないで悔い改めなさいっ♥ れりゅうう、ちゅっ、ちゅっ、ちゅるるう♥」

精炎「それは無茶ッ！ ああッ!!」

「ビクビク脈打っててえ、エラも出っ張っててえ、とってもエッチなニオイ♥ ステキステキ♥ この凶悪チンポでどんな悪い事をしたのお♥」





アンジェリカ「んんっ、おっ♥ おっ♥ おチンポ縮めてお尻振るのっ、最高のおお♥ はへえっ♥ あっ、あっ♥ ドスケベおマンコいっぱい味われっ♥」

ドンッと尻を叩きつけられる衝撃が、股間から響いてくる。重さとハリが心地よく下腹を叩きマッサージされているような気分になってくる。マッサージにはチンポが気持ちよすぎるが。

アンジェリカ「ううっ♥ はあはあっ♥ またイクっ♥ すぐイっちゃうランっ♥ おマンコ敏感になつれゆうっ♥ あはあっ♥ あああっ♥」

尻振りの勢いとプリプリの膣肉の感触はそのままに、また抽挿しながら絶頂している。イキながら同時に何かするなんて、普通は無理だ。種族としての強みってやつか!

アンジェリカ「さっきまれ処女らっらのに、もう貴方様のおチンポれ、おマンコイキまくりいい♥ ろっれもしあわへえ♥ はあん♥」

「見れ見れえ、またイクからあッ♥
イク悪魔を見れええ♥ はああ、あっはああああッ♥
貴方様のおチンポで
あっはああああッ♥♥」





「こうですか？ んく……異性に見られるのってすごく緊張しますね……しゃばいですね。え、えへっ!!」



毛なんて生えていない温まっている秘肉に、指先を這わせてくすぐると、膣口やアナルがキュッと緊張する。しかし、すぐにまるで酸素でも欲しいようにゆったりと開く。プルプルとお尻やおっぱいを震えさせながら従ってくれるリジィちゃんの態度にも、そそられる。

リジィ「あああ……指でオマンコをくちゅくちゅされると、なんだか気持ちよくなっちゃって、毛を剃るっていうより、まるで……はあはあ♡」

精炎「エッチしてるみたい？ 毛を剃りながらエッチできるなんて、お得だろ？」

マジカル剃毛クリームがなじんだのを見計らって、魔導書から絶対に肌は切れないマジカル安全剃刀を召喚し、リジィちゃんの下腹に乗せる。

リジィ「あうっ、うう……ンッ……あっ♡ ふふっ♡ くすぐったいですっ♡ ああっ、あははっ♡」

さすがマジカル。素人が剃毛しているにも関わらず、リジィちゃんは気持ちよさそうに顔を緩ませた。

Exciting sub Characters



リジィ「オチンボもビクビクっれえ♥ オマンコのナカで跳ねれましゅっ♥ パンパンに膨らんだオチンボれ扱げられるの気持ちよしゅぎましゅう♥」

ラフィ「はああ、ザラザラの舌でクリトリス擦りゅのお、やめられにゃひいっ、ああっ♥ 恥ずかしい汁、いっぱい飲まれりゅう♥」

精炎「うぐっ! うっ……ンン……!!」

腰振り踊り狂うスケベなメス達の勢いにのまれ、チンポがドクドクと射精に向けて準備をし始める。

リジィ「んおおっ♥♥ グリッれ♥ 今、グリッれええ♥ おっきいオチンボで子宮ちゅぶれりゅう♥ はひい♥」

精炎「はぐっ!! んぶっ、ぢゅっ、ぢゅるるううっ!!」

ラフィ「ああああッ♥ 吸われりゅの怖いっ♥ オマンコ食べられちゃうううっ♥ ひうううん♥」

とっくに快楽に飲まれているリジィちゃんとラフィちゃん。止まれないといった様子で、グリグリと股間を押し付けて、射精寸前の俺から快感を貪っていた。

**「私も同じれす♥ ずっとイキ続けてましゅう♥ ンン……
熱い子種を受けれっ、子宮が嬉しくてキュンキュンっれえ……はああ♥」**





リラ「ああ……恥ずかしいのに自分からお尻……押しつけちゃってるう……あああ
っ♡ はぁあんっ！ んん、んはぁ……あへええ……♡ イキ、まひゅううう
……♡ イキそうでひゅうう……♡♡」

精炎「くう……ふう……いいおマンコです、リラさん……っ」

リラ「はひい……い、い、いわないでえ……あっ、あっ、ああ……独り言から
ああ……♡♡」

精炎「はぁ……マンコ、アツアツですね……クールな雪女かと思ったら、とんだド
スケベ淫乱マンコの持ち主だったんですね……はぁ、ふう……」

リラ「あ、ああ……らめえ……みんな見てるのに……いろんな人が来てるのに
い……あ、ああ、はぁ……はぁああん……♡」



**「あっ、あっ、あん、お願い……妊娠しちゃうくらいたっぷり……
ああっ、好きなだけ出してもいいわよ……はぁ、はぁ、はぁああん！」**



噴水のように宙に噴き上がった精液が、ピチャピチャとリラさんたちの
肌而降り注いでいく。射精も射乳も、まったく勢いが衰えないまま、全
員が粘つく白い液体を身体に浴びている。精液を肌で受け止めなが
ら、なおもビクンビクンと絶頂し続けるフロス村の皆様。とても絵になる
光景だった。

レモナ「はぁはぁ……んんふう……お兄ちゃん……すごく温かいのが流
れてくるの……わかるよ♡♡」

肌に付着した白濁液を、ボディローションのように肌に塗り上げるレモ
ナちゃん。

アーネス「あああん……こんなチンポの味覚えちゃったら……クセにな
っちゃうの♡♡」

アーネスさんは喘ぎながら恍惚の表情を見せている。

シャーラ「あああっ……もう腰が……抜けちゃってダメれすうっ♡♡」

シャーラさんも荒く息を吐き出しつつ、グツリと俺に寄りかかってきた。

**「あああっ、すごいキミの
ドスケベお・チン・ポ……ンンっ、
呪いといっしょにおマンコも
溶けちゃうわ♡」(リラ)**



「ああああ、それはならにゅっ♡
 気持ちよくされてる姿なじょっ、尻の穴で
 生きれおられにゅっ♡ おっ、おおおっ、
 おおおっ、おおおっ、おおおっ、

ベルダ「尻の穴、チンポれこすれりゆのっ♡ きもひいいかりやっ♡
 ♡ あああ、早くおわらせれっ♡ はひあ、あおっ♡ お願いやああ♡」

とうとう理性を欠いて、アナルの快感を受け入れてしまうベルダさん。ちょっとマゾっ気もあるのかもな。初めてのアナルセックスで、泣くくらい悦んでいる。

ベルダ「んんっ、はあああっ、ああああ♡ 尻の穴にチンポがひっかかっれっ♡ はらわたがひっばられっ♡ ふう♡ ふう♡ ううんっ♡」

快感にすっかり飲まれて、バタバタと足をバタつかせて、イヤイヤと首を振る。ゾリゾリッとチンポが腸壁にはっきり擦れると、母乳が勢いよく噴き出す。なんて可愛いくいやらしい姿だ。股間がさらに熱くなる。

ベルダ「おっほおっほ、ああああっ♡ あああっ♡ イヤイヤのにいい♡ 尻の穴れっ、イクっ♡ イクっ♡ んはあっ♡」



その言葉が嘘ではないと証明するかのように、マロンはうっとり目を細め、口の端からヨダレを垂らす。

精炎「マロンは感度もいいし、もともとエッチな素質があったんだなっ」

マロン「はあっ、はあっ、んっ、く、くううっ♥ 船長しゃまに開発してもらえて感謝れしゅう♥ はううっ、う、うはあっ、ふあああっ♥」

いきり立つ肉槍が、マロンの奥の奥まで犯していく。マロンもそれを嬉しそうに受け入れて、リズミカルに腰を動かし、快楽を貪る。

マロン「あうう、ふあっ……うううっ！ 立て続けに二度目なんて、すごすぎですうっ！ あっ、あっ、あっ、あっ！ きゃううんっ♥♥」

精炎「もう慣れたから怖くないだろ？」

マロン「はいっ♥ あ、んっ！ ふあっ、もう、何度でも航海しちゃいますうっ！ ンあっ、はっ、はひっ♥ はあっ、あっ、んんんうっ♥」



「変になっちゃいましたしゅっ♥ 大きな波に飲み込まれそうれしゅっ♥ うあああああっ！ あう、あううっ！ ひゃあああっ♥♥



シトラ「ひぐう！ ひゃへええ……
あ、ああ、チンポが、ゴツゴツぶつか
って、くるう……あああん、すごい
……おチンポ、いいよ～……♥
見てえ……おマンコから、さっきの精
液、溢れてるよお……はあ、はあ……
んっ、あああん……♥」

先程放出した精液が、割れ目から滴
り落ちてくる。愛液と入り混じり、かす
かに泡立ったトロトロがチンポの根本
をピチャピチュに濡らしてしまう。

シトラ「あはあ……はへえ……んん
っ、くうん……♥ チンポいい～
……は……は……チンポ、いい
よお……チンポ、おチンポお～
……♥」

精炎「ううう、くう……おマンコが縮
め付けてくる……中がグネグネうねっ
てるっ」

シトラ「あはあ……おマンコが、ずー
っと大悦びしてる……あ、ああ……イ
クのが、止まらないよお……はあ、は
あ……あへええ……♥」

「あうう……気持ちいい……駄目え……あ、
ああ……駄目ええ……出されちゃうう……お
マンコに命の素が、注がれちゃうう……♥」

「ハピネスのまんこがトロトロでらめらめに
 なっちゃう前にらしれえ♥ご主人サマの
 赤ちゃんの素、いっぱいハピネスにちょうらいい♥」



膣内で熱汁の奔流を感じ取ったハピネスは、前後の動きを止めて痙攣を始める。脈打つチンポに膣が反応して、膣道を狭めて、最奥に入ったまま固定する。

ハピネス「飛んれないのに、体中がフワフワつれ……はへえ……
 ♥ あうっ♥ ううっ♥ 頭もまんこもビリビリゾクゾク……んあっ♥」

瞬間に膣内にはドロリと粘着質な熱感が充満し、結合部から卑猥な水音が弾けた。身体の動きは止まっているのに、ハピネスの膣肉は活発的にチンポを揉んで搾る。快感と刺激に過敏に反応したチンポが、膣内で何度も跳ねて熱汁を吐き出した。

ハピネス「ふわああ♥ ご主人サマのちんぽから、あったかいのれれる♥ ちゃんとわかりゆう……しゅごおい……あん♥」
 ハピネスは肉付きのよい身体をクネらせて悶える。ハピネスが快楽で震えている姿に見惚れながら、ぴったりと尻に股間を押し付け



「はあっ♥ はあっ♥ ご主人サマ……ハピネスね、チンポがいい……♥
 ゴロゴロ全部出して、チンポ入れてほしいよお♥」



膣口は拡がりきらず、ハピネスが息むのをやめると、途端に内部に戻っていく

ハピネス「はあっ♥ マンコの中でゴロゴロの感触が強くなるばかりで、上手く出せないよお……ふうふう♥」

精炎「ハピネスのマンコはキツキツだからな。ボールを押し出すんじゃなくて、締めつけているんだ」

踏ん張り続けるハピネスの膣から顔をのぞかせているボールを、指先でつつく。すると、直に触れているワケでもないのに、ハピネスは尻を大きく震えさせた。

ハピネス「やああ、押し込んじゃやああ♥ あううっ♥ ご主人サマのいじわるいじわるっ♥ ううっ、んあっ♥」



「んっ……あ、ああっ……あああっ、ひめあっ……
 入りきりにゃくてあふれてりゅよお♡ あなたの
 精液っ……じえんぶ子宮に吸い上げたいのにいい♡」



精炎「くうっ、はあはあっ、可愛いぜっ、ラグ！ このまま……ずっとエッチしてたいぐらいだっ！」

ラグジュアル「はふんっ♡ ああん♡ しょれれもいよおっ♡ 遅いおチンポっ、ずっとハマられてたい♡ あんっ♡ ああっ♡ あ、あああっ♡」

すっかり従順になって愛しそうにペニスをマンコ肉で抱き締め、キュウキュウと締めつける。

精炎「処女だったとは思えないぐらい淫乱になっちゃったな？ もともと素質があったのかもな」

ラグジュアル「んっ、んっ♡ ひゃ、ひゃうああん♡ こんなにやしたのは、あにやたれしょ？ 人間のくしえに生意気なんからあ……♡ んっ……♡」

どうやら正体がバレってしまったようだが、ラグはさほど気にしていないようだ。エッチする前だったら憤慨していたかもしれないけど。お咎めなしということで気をよくした俺は、ラグの濡れそぼつ蜜穴をがむしゃらに突き上げた。



▲学園外観



▲学園外観 (学園祭仕様)



▲学園廊下



▲学園廊下 (学園祭仕様)



▲闘技場



▲教室



▲保健室



▲中庭



▲美術室



▲家庭科室



▲更衣室



▲屋内プール



▲テニスコート



▲音楽室



▲学園購買部



▲理事長室



▲理事長室 (儀式)



▲女子トイレ



▲体育館



▲体育館 (未使用)



▲射撃場



▲寮の主人公の部屋



▲寮の主人公の部屋(夜/消灯)



▲寮の主人公の部屋(夜/点灯)



▲魔恋の部屋



▲ソフィアの部屋(夜/消灯)



▲大浴場



▲談話室



▲ダンジョン



▲きのこの森



▲きのこの森(夜)



▲理容室



▲武器屋



▲教会



▲マーメイド喫茶



▲浜辺



▲馬車車内



▲オカルト研究会の部室



▲オカルト研究会の部室(儀式)



▲空



▲夜空



▲森



▲森(夜)



▲暗転

【夢々崎 魔恋】

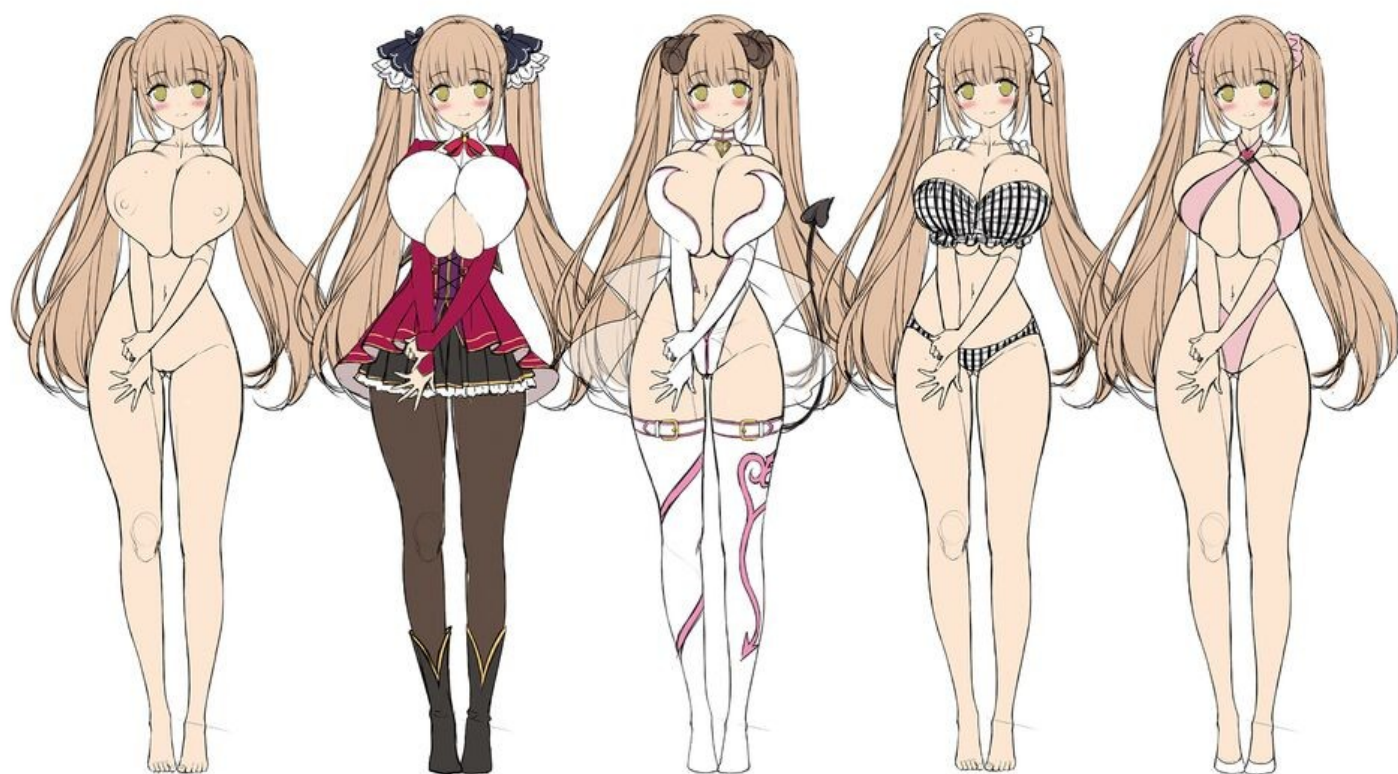


MAIN CHARACTER



【キヤルル・リストラム】

【鷺宮 鷹美】



【シャルティナー・ライトガルト】

【キェンキェン・オ・オルガナイト】



MAIN CHARACTER



【エルゼ・イヴ・ディアンタ】

【セレスティア・ラシエール】



【ガザリア・ラファエリス】

【ソフィア・フォン・マナグラス】



MAIN CHARACTER



【ファル】



【アルヴィネコ】

SUB CHARACTER



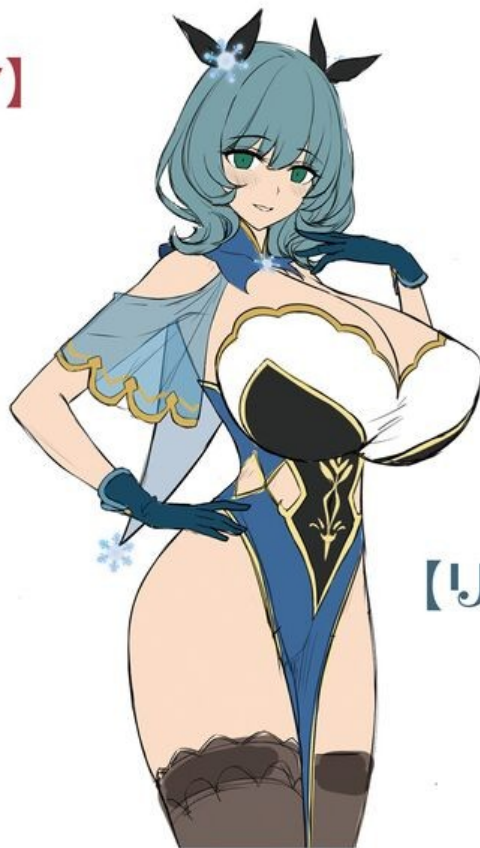
【フィリス】



【アンジェリカ】



【リジィ】



【リラ】

SUB CHARACTER

【ベルダ】



【ラロン】



【シトラ】



【ハピネス】



【ラグジュアル】

制服デザイン



みるくふぁくとりー

[リミテッド・インタビュー 2]

LIMITED INTERVIEW 3

～作品を生み出すメインスタッフが語る制作裏話～



みるくふぁくとりー代表

マイブームは、昔流行ったキャラクターのぬいぐるみを集めることというみるくふぁくとりーのスタッフを束ねる偉い人。でも、集めすぎてしまうと置き場に困って大変なので、知り合いにおすそ分けしながら計画的(?)に収集しております。



でらうえあ

仕事中は、コーヒーと牛乳が3:1のコーヒー牛乳(無糖)が欠かせない、みるくふぁくとりーの原画家。「プレイステーションクラシック!アークザラッド2」が終わらない……。



唐子ニコフ

面白そうなソシャゲを片っ端からインスコして盆栽のようにプレイすること、がマイブームのみるくふぁくとりーのディレクター。最近は1年経たずに枯れてしまう盆栽が多いですね……(^.^) 向こうの業界も大変なんだなぁとスマホを通して感じています。

サキュバスヒロインの誕生秘話(!?)

——2作目『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!』の反響などはどのような感じでしたか。SNSをかなり上手に活用されていたと記憶してのですが、手応えや反響の方はどうだったのでしょうか。

でらうえあ: 1作目のときよりはフォロー数も増えてスタッフ、ユーザーさん皆で作品を盛り上げられたかなと思いました!

——デビュー作のときよりも、手応えがあったんですね。色々挑戦した広報展開が良かったんでしょうね。そして迎えた第3作目となる本作ですが、これまでと違ってヒロインの幅をかなり絞った印象なのですが、種族をサキュバスに絞ったのは何故でしょうか。

みるくふぁくとりー代表(以下、代表): わかりやすい直感的なドスケベ設定だったので企画を進めました。常にエッチな設定を追い求めておりますので、今回の企画もご期待いただければ……!
——エロの表現や描写の方を優先させ

たということですか。そうすると、キャラメイクに苦労されたりはしなかったですか。

ディレクター唐子ニコフ(以下、唐子): キャラの文字設定に関しては“サキュバス”自体が既に“エロい”という一般認識なので、そのサキュバスをアプリと絡ませてパブリッシュ的によりエロくアピールするようなキャラ設定やキャラのシチュエーション設定が難しかったですね。

——やはりキャラメイクは大変だったのですかね。でもエロの面では、逆にやりやすそうな印象を持っていたのですが……。

唐子: サキュバス=エロエロですよーだけの短絡的な思考停止アピールだとユーザーにスルーされるので、王道的なエロシチュエーションとのバランスに苦労しました。

——ユーザーの想像を越えるプラスアルファや飽きさせないバリエーションというのは、確かに悩みどころですね。

唐子: サキュバスのイメージが誘惑的で主人公が何もせずともセックスを求めてくる……というのが一般的なサキュバスのイメージなので私自身、開発す



▲口元にも、漫画表現から取り入れた演出が施されている。舌を大きく出すアヘ顔と、口の周囲を歪ませる悦顔。日常の嬉しい顔とは一線を画す表情だ

る前はサキュバスのエロに関して食傷的な感じを持っていました。先ほども言いましたが、サキュバスというのは既に存在自体がエロくエロのハードルがあがっているので、サキュバスに羞恥をあたえるようなシチュエーションやサキュバスのにお約束シチュエーションなどをバランス良く盛り込むのに苦労しました。

——エロに積極的なキャラを辱めると、キャラは普通に喜んでしまいそうで、手腕が問われるところですね。どういう風に解決されたのでしょうか。

唐子: 学園設定をもとに“性的ギャップのある設定のキャラ”や“身体的に性的な悩みのあるキャラ”など、全て何かしら“性的な”問題・特徴を抱えるようなサキュバスをつくるようにしました。

——弱点や特異性を持たせることで、辱めるポイントを付加した訳ですね。

唐子: 実はこの企画を進める前に、とある方から「今更サキュバス大丈夫ですか?」と警鐘を頂いたのですが、たしかにサキュバスを題材にした既存ゲームなどが結構あるので食傷気味かと不安もあったのですが、“10人のサキュバ



▲本作には、サブヒロインにそのまたサブのキャラが3人絡むシーンも用意されている。登場する半分以上のキャラについて知識が無くても満喫できるのが、みるくふあくとりー作品の魅力だ

ズ”“サキュバスの学園”という内容のものはリリースされていないと思うので、そこにガ〇アの夜明けというか囁きがあったような感じがしました。

——多人数ヒロインであることや学園を舞台にするといった、みるくふあくとりーが掲げているブランドのコンセプトが、その不安を解消してくれたというのも、面白いですね。

さらに強化させた演出とこだわり

——キャラメイク以外で、本作を作るにあたって一番苦労したのはどこでしょうか。

唐子: 原画の枚数が多いのでコンテやプロット作成がキツかったです。

——以前から取り入れているLiveエロアニメが20本以上になっていたりと(前作のほぼ倍の量)、様々なポイントをパワーアップさせていますものね。そういえば前回(「もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!アートワークス」)の記事で、ボイスを効果的に増やせることになったと言われていましたが、具体的にどのようなことを強化されているのでしょうか。

代表: これはもう身も蓋もない話ですが……音声に割り当てる予算を強化し

ました。それに伴い、ボイス数もうなぎ登りに……でも、作品がよりエッチに、よりヌケるようになってくれるならオッケーです!

——(笑)。前作からセリフにハート記号を増加されてますよね。これはボイス数を増加したことと何か関係性があるのでしょうか。

代表: この表現方法は元来エッチな漫画でよく使われている表現なのですが、でらうえあ先生がえちえち漫画家なので、そちら(エロ漫画業界)の表現を輸入した感じです。今後もエッチな表現を広げられる手法があれば、業界問わず取り入れていこうと思っております!

——あくまで表現の演出のためでしたか。ビジュアル面に関することだと、前作からエロCGの表情の細かさにごこだわっておられましたよね。それがキャラの瞳にハートを描いたり、輝かせたりといった表現の強化なのだと思うのですが、あの演出はどうやって思いついたのでしょうか。

代表: ベースは、でらうえあ先生が個人的に制作している漫画を参考にさせていただきました。他にも他社様の作品も拝見させていただき、リスペクトし、イ

ンスピレーションを頂いております!時代の潮流に置いて行かれないよう、常に心の勃起でマスターベーションをし、作品に反映していきます。

——常に、勉強、勉強なんですね。彩色面においても、デビュー作、2作目、と続けて強化を図られてました。本作でも何か強化をされているのでしょうか。

代表: CGの技術は日進月歩、日速月瞬(造語)なので、常に最先端から置いて行かれないよう各各努力しております。他誌ではございますが、mignon先生の肌塗り本を穴が空くくらい読み、作品へ反映しております。そしてなんと、著者であるご本人様にも彩色していただいております!(宣伝)

——手本にされていて師匠と言える方が参加されているのは、凄いですね。では、本作で一番こだわった部分はどこになるのでしょうか。

唐子: ラフチェックで“おっぱい”のボリュームと肉感的な監修にごこだわりました。

——おっぱい! これは愚問でしたね。ときに、みるくふあくとりーでは新しいことを取り入れていく方針ということで、今作から射精カウントダウンモードを導入しておりますが、手応えのほどはいかがでしょうか。今後の王道になりそうですか?

代表: システムの評価って、導入するとご不満の評価は無くなるのですが、ご好評の評価と言いますかレスポンスはほぼ無いのですよね……今の所ご不満の評価は届いておりませんので、多分ユーザー様にはご好評なのかな、と思っております

——では、前作から採用しているイベントCGを拡大できるルーベ機能については……?

代表: こちらも上記と同じで、不満をいただいてないので多分ご好評なのかなと……。

——不満評価が無いのは良いことです

「サキュバスというのは既に存在自体がエロくエロのハードルがあがっているので、サキュバスに羞恥をあたえるようなシチュエーションやサキュバスのにお約束シチュエーションなどをバランス良く盛り込むのに苦労しました。」(唐子)

「本作では露出を控えめにしながらもHに見える衣装を模索しまくりましたね」(でらうえあ)

が、もう少しレスポンスが欲しいところですね。これらの新しいことを取り入れるにあたり、基準にしていることなどはあるのでしょうか。

代表: 話題になったもの、バズったもの、人づてに語られるもの、この辺りを基準に、あとは個々のセンスを尊重してゲームへの採用の判断をしております。最終的には個々のセンスが重要になってきますね……。

——センス、一番難しいやつ……。

みるくふあくとり一流 のデザインと見せ方

——本作のヒロインのひとり、キャルの髪型とかはとても特徴的ですね。定番となっている縦ロール髪型のキャラもそうですが、取り入れるのに基準とかあるのでしょうか。

でらうえあ: 基本的にはディレクターの指定でラフを起こして、全員横並びにしてから調整する感じですね。

——ヒロイン10人を横並びにしたうえで、バランスを取られているのですか。

でらうえあ: そこで、髪型や髪色変更するキャラクターもいます。

——そうやってキャラを確立させていく訳ですね。多人数ヒロインだと、その調整はかなり大変そうです。差別化のため、軸としている王道から外れてしまうキャラを生み出す、といったこともあるのでしょうか。

代表: 基本として王道を外すことは無いですが、業界内の飽和であったりユーザー様の飽きの対象が王道シチュエーションだった場合は、容赦なく除外することもあります。

——ゲーム内だけでなく、そういう面も捉えてバランス調整されているんですね。今作では、サブキャラの同僚といった血縁ですらないキャラが登場しますが、彼らの資料もまた母親たちと同様に無いのですよね。キャラメイクはどのようにされているのでしょうか。

唐子: キャラメイクは私生活で見ているアニメやソシャゲ、サブカルチャー的な情報から影響を受けたものをベースにオマージュするような形でメイキングしています。それに、簡単な関係者用の内部設定資料は用意しているんですよ。

——そうなんですね。血縁でもないキャラのビジュアル化を、でらうえあ先生はどう対応されているのか、とても不思議だったのですが、では特に苦労することもなく……!?

でらうえあ: ディレクターの好みもガッツリ反映された資料がありますので、全然困りません! なるべくこうしたいんだ! という意思を汲み取って制作にあたっています。

——ところで、本作ではでらうえあ先生が衣装のデザインをされているかと思うのですが、1作目以来久々にやってみていかがでしたか。

でらうえあ: 制服設定はいつものことですが大変でした!

——衣装のデザインをされるうえで、一番苦労したことを教えてください。

でらうえあ: 苦労したのは特に制服で、露出を控えめにしながらもHに見える衣装を模索しまくりましたね。

——異世界が舞台のときと現代的な作品のときと、衣装デザインをするにあたり、どのようなことを心がけてますか。

唐子: 肌の露出が多く立っているだけで下半身にささるような原案を原画家さんに出すよう心がけています。

——キャラの見せ方、で思い出したのですが、公式サイトで「キャラビクアップ」があるヒロインと無いヒロインがありますが、何か理由があるのでしょうか。

唐子: そのときの仕事の繁忙で決まったり……ではなく大体半分ほどという設定で製作しています。

みるくふあくとり一 が見据える今後の展望

——デビュー作の発売記念イベントとして始まったでらうえあ先生のサイン会。今回は追加開催までされてますので、ユーザー様の反響が凄かったのだと想像に難くありません。開催対応のご苦勞や、開催してみたいの感想などを教えてください。

代表: 確かに、初の追加開催でしたね。発売日、思ったより早く全員プレゼントの品がなくなってしまって……せっかく来てくれた方がくじを引けないということがありました。急遽2回目の追加開催を決定したのですが、再度また新しい賞品の製作や告知が大変で……でも、多くの方に参加いただけたので本当によかったです。

——ウイルス感染対策などが必要な状況下で、しっかりファンと交流できて良かったですね。でもサイン会を地元で開催されたりはしないのですか? ブランド名や前作のキャラ名の成り立ちを考えると、むしろ地元優先で開催されてもおかしくないように思っていました。



▲母親ハーレムエンドが実装されるなど、ユーザーの要望を取り入れた本作には、もちろん母親のみのイベントが複数用意されている



▲股間がギンギンになってしまう妖艶な姿で表紙を飾ってくれているのは、ヒロインのひとり夢ヶ崎魔恋。表紙の差分イラストは他にも掲載されているので、探してみてくださいね

代表: 1作目のときから札幌のどらのあなさんの店舗内を一部お借りしてやっていた。しかし、今は店舗がなくなってしまったので難しいかもしれません。

——今回、東京開催だけだったのはそういう事情があったのです。次回作までに状況が好転するといいですね。話は変わりますが、独立してからキャラのエロシーンを増やせるようになったことで、実際に1作目、2作目、3作目と、CGボリュームが増加していますが、これは今後も続けていかれるのでしょうか。

代表: もちろんでございます！ 弊社が継続する限り、作品を重ねる度に、常に前作を超えるリソースで作品をリリースする予定でございます。私の目が黒いうちはCG枚数を減らさせませんのでご安心を！

——その意気込みを体現するかのよう

に、本作では母娘井どころか、母親ハレムまでもが用意されておりますが、母親の人気ぶりは、どれくらいお手元に届いているのでしょうか。

代表: ユーザーの皆様からもメールなどでご好評を頂いております、ありがとうございます！ 次回作でも、もっともっと増やしていければなあ……と思っております。

——例えばですが、それは今後、母親をメインとした『もっと！孕ませ！』シリーズの企画が生まれる可能性もある、ということでしょうか。

代表: それは今後の売上だったりユーザー様の反応しだいの部分もございますね……今後、何かしらの作品と言いますか商品（例えばアペンドなど）をリリースして、こちらの反応が良ければ……！

——可能性はある、と。さて、本作が発売されてから約1年半。そろそろユーザーも次回作を期待してる頃かと思えます。そんなみるくふあくとりーフンの皆さまに、一言ずつ頂けますでしょうか。

代表: いっぱいヌケる作品をこれからも作ってまいります！ 応援よろしくお願ひいたします！

唐子: 次回作に向けて現在作業中で多忙を極めております。母親に関しましてユーザー様から比較的要望の強かった部分を“新しいシステム”として導入しましたので、ユーザー様の期待に沿えるような結果になれば幸いです。

でらうえあ: 次回作、私もまた皆で盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします～～！

——全3回に渡ってご協力頂きまして、本当にありがとうございました。

「もちろんでございます！ 弊社が継続する限り、作品を重ねる度に、常に前作を超えるリソースで作品をリリースする予定でございます。私の目が黒いうちはCG枚数を減らさせませんのでご安心を！」（代表）



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園! アートワークス

2022年10月14日 初版第1刷発行

発行人	中沢慎一
編集	メガストア編集部
監修・協力	みるくふぁくとりー
装丁・デザイン	株式会社 Sorairo
発行所	株式会社 コアマガジン
	【営業】
	〒171-8553 東京都豊島区高田 3-7-11
	電話 03 (5950) 5100
	【編集】
	〒171-0033 東京都豊島区高田 3-7-11 4F
	電話 03 (5952) 7812

製版	株式会社山栄プロセス
印刷	大日本印刷株式会社

ISBN 978-4-86653-619-4

©みるくふぁくとりー All Rights Reserved.

乱丁・落丁本は送料弊社負担にてお取り替えいたします。ただし中古でお求めいただいたものはお取り替えいたしかねますので、購入された書店を明記の上弊社営業部までお送りください。

本書の一部または全部を、無断で複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）すること、または本書の複製物の一部または全部を無断で譲渡し、もしくは配信することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼して複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反となります。



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス
Artworks

Let's creampie a young succubus with a lascivious mark.

コアマガジン

18

未満





9784866536194



1920076031823

発行: コアマガジン

定価: 3,500円 (本体3,182円+税)

ISBN 978-4-86653-619-4
C0076 ¥3182E

